明治四十一年八月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百二十五號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第貳百貳拾五號目次

講演

○身體及其保護（續き）　ドクトル 富士川游君講演

叢談

○馬鹿につける藥　か、め君

○身體の脂肪　H、K君

○遺傳の話　東京醫科大學 神尾驥君

○活ける家（承前）　醫學士 渡邊房吉君

○醫家の美顏法（續き）　H、G君

○如何なる食物が最も宜きか（續き）　K、K君

家庭衛生

○個人の衛生　醫學士 竹中成憲君撰

育兒

○小兒哺乳に就ての注意　醫學士 河野衛君述

質疑

○肺結核病と酒に就て○口を開いて眠る小供の疾病につきて

雜報

○内務所管の衛生費○コッホ博士の旅程變更○コ博士に日本服を贈る○萬國學校衛生會議○飼猫の調査

大日本婦人衛生會記事

○茨城支會入會者○山形支會入會者○新潟支會入會者

○轉居

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉會　告◉

◉會費未納の御方は會計整理の困難を察せられ本年十二月迄の前金相添へ至急本會事務所へ宛御送金被下度候

◉前金切れの御方は此際御送金被下度候也

本會の振替貯金口座番號一〇六〇〇番に付右番號を御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名（即ち本會）等を記入し同時に金圓御拂込相成候はゞ直ちに本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候、右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被下度此段會員諸姉に稟告致候也

○（七月發行の本誌）には會員諸姉の御便宜を謀り振替貯金拂込用紙を添付致置候間こを御用ゐ被下度候

○爲替御送附の節は本會事務所宛にて麹町區富士見町郵便局へ御振出しを乞ふ

私立大日本婦人衛生會米澤支會規則

第一條　當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を増進するにあり

第二條　支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條　當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條　毎月一回（第二日曜午後一時より四時迄）談話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條　入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條　當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條　會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條　會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は賛成員となすべし

第九條　談話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條　支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條　特に支會則に掲げさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衛生會新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼れて一般慈善事業を爲すにあり ●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢 ●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし ●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す ●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす ●第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす ●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし ●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を執行す ●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし ●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし ●第十一條　一般慈善事業の幇助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす ●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を着用すべし ●第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみなして足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を悉くし幸福快樂のうちに一年な送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活な得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす。

抑も〱衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆許等婦人のもつぱら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相次て起り婦人社會も漸く其の面日を改めんとするは實に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を拂はざるものゝ如くまことに可惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ談り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち遙か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會の旨趣の梗概を敘べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を論究し衛生上の智識を開發せしめ延て社會全般の幸福を増進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に設け地方に便宜支會を設く

第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の際は姓名族籍住所及會員の種類を詳記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續細目に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會に功勞ある者贊成する者は之を贊成員とす其贊成員は本會員と同じ但本會に功に依る無又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議により [illegible]

第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得

第八條　退會せんとする者は其旨を本會事務所に報知し死亡する時は親族より通知せらるべし但既納の會費は之を返戻せず

第九條　本 [illegible]

[illegible] 會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員 [illegible] 會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に囑することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け [illegible]

[illegible] 會及評議員會とす常會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し緊要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互に親睦の爲め開遊會を開くことあるべし

第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑托し會員をして聽かしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知人の婦人を [illegible]

[illegible]

東京市麹町區富士見町二丁目廿二番地

私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃 周子殿下
會長　侯爵夫人 鍋島榮子
副會長　男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　羽田三紀子
同　岡田德子
同　高木かう子
同　山本多穂子
同　松平芳子
同　三浦敬子
同　石川貞子
同　岩下ゆか子
評議員　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　穂積歌子
同　土肥多越子
同　緒方悦子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人 加藤鈴子
同　片山俶子
同　吉武郁枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
同　川村きよ子
同　男爵夫人 南部限子
同　中濱芳子
評議員　子爵夫人 山口貞子
同　松井正子
同　岸濱子
同　三宅藤子
同　宮本榮子
同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤．

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士 ●入澤達吉君
理學博士 ●飯島魁君
ドクトル ●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學博士 ●伊東祐彦君
ドクトル ●飯盛挺造君
醫學博士 ●伊藤隼三君
理學博士 ●石川千代松君
[illegible] 岩井禎造君
醫學士 ●石原久君
醫學士 ●磐瀬雄一君
醫學士 ●石原喜久太郎君
貴族院議員 濱尾新君
醫學博士 ●濱田玄達君
法學博士 ●鳩山和夫君
東京 ●萩原榭四郎君
醫學博士 ●芳賀榮次郎君
●長谷川泰君
新潟 ●長谷川一諒君
小兒科 ●小原柾之君
醫學博士 ●岡川榮吉君
醫學博士 ●林作雄君
醫學博士 ●佐藤迪次郎君
醫學博士 ●緒方正規君
步兵中佐 ●堀内文次郎君
醫學博士 ●土肥慶藏君
醫學博士 ●岡田和一郎君

醫學博士 ●大澤謙二君
醫學士 ●大西秀治君
醫學博士 大澤岳太郎君
一等藥劑官 恩田重信君
醫學士 ●若杉喜三郎君
醫學士 ●渡邊房吉君
男爵 ●加藤弘之君
醫學博士 ●加藤照麿君
醫學博士 ●賀古鶴所君
醫學博士 ●河本重次郎君
醫學博士 ●片山國嘉君
醫學博士 ●川上雅最君
醫學博士 ●櫻田惣一郎君
醫學博士 ●金杉英五郎君
醫學博士 ●笠原光興君
醫學博士 唐澤光德君
醫學博士 ●河野衛君
醫學博士 ●高橋順太郎君
ドクトル ●高山紀齊君
醫學博士 ●高木兼寛君
法學博士 ●高木明三君
醫學博士 ●田代義德君
新潟 山代亮助君
男爵 ●高崎正風君
醫學士 ●竹中成憲君
醫學士 ●高田耕安君
新潟縣病院長 ●高橋長五郎君
藥學博士 ●丹波敬三君
醫學博士 ●高橋貞直君
藥學博士 ●田原良純君
醫學博士 ●田村光熙君
醫學士 ●久保猪之吉君
醫學博士 ●米山彦郎君
二等軍醫正 ●星野俊光君
醫學士 ●宮本叔君
三等軍醫正 ●横井忠周君
大日本體育會會長 辻新次君
理學博士 ●坪井正五郎君
醫學博士 ●長與稱吉君
男爵 南部実男君

理學博士 藥學博士 ●長井長義君
醫學博士 ●遠山椿吉君
醫學博士 ●中濱東一郎君
醫學士 ●黑田支通君
醫學士 ●栗本庸勝君
海軍中佐 ●小笠原長生君
醫學士 ●村松紙三君
醫學博士 ●岡川宗雄君
醫學博士 ●栗本東明君
醫學博士 ●山[illegible]鐵三君
醫學士 ●山田弘倫君
醫學士 ●山根正次君
岡山 ●山川春二君
衛生所技手 ●丸山長四郎君
ドクトル ●松山陽太郎君
ドクトル ●世木信六郎君
盲啞學校長 ●小西信八君
廣島 ●小泉賀君
醫學士 ●古川榮君
東京 ●布施正斷君
[illegible] ●後藤新平君
[illegible] ●エ、ベルツ君
醫學士 ●甲野棐君
文部書記官 ●寺山勇吉君
醫學士 ●寺川妙作君
醫學士 ●寺田織尾君
子爵 ●秋元興朝君
前軍醫總監 ●足立寛君
ドクトル ●富士川游君
高崎醫會長 ●土谷全次君
產科婦人科 ●水原漸君
ドクトル ●久保田武厭君
醫學博士 ●佐々木政吉君
醫學士 ●淺川決君
醫學博士 ●朝倉文三君
ドクトル ●朝山花六君
醫學博士 ●吾妻勝剛君
醫學博士 ●佐藤三吉君
醫學士 ●櫻井郁二郎君
ドクトル ●佐伯理一郎君

醫學博士 ●榊順次郎君
醫學博士 ●榊保三郎君
醫學士 ●佐藤得齊君
醫學博士 ●櫻井恒次郎君
醫學博士 ●桐淵鏡次君
醫學士 ●北村精造君
醫學博士 ●北島多一君
ドクトル ●北川乙治郎君
醫學博士 ●木下正中君
醫學士 ●北島小太郎君
醫學博士 ●北里柴三郎君
醫學博士 ●三浦守治君
醫學博士 ●三浦謹之助君
小兒科專門 ●宮本仲君
理學博士 ●篠[illegible]作吉君
醫學博士 ●三島通良君
醫學博士 ●三宅秀君
醫學博士 ●三輪信太郎君
伯爵 ●土方久元君
醫學博士 ●島村俊一君
醫學博士 ●弘田長君
ドクトル ●日高昂君
ドクトル ●須山卓附君
醫學士 ●澀川德君
醫學博士 ●木村德衛君
醫學博士 ●森林太郎君
醫學士 ●笹川三男三君
醫學士 ●波多野榜君
醫學博士 ●矢秀三君
ミス ●リッテル
ミス ●ヒユース
ミセッス ●コーツ
ドクトル ●菊池循一君
醫學士 ●橋本左武郎君
醫學士 ●鳥居作治君
醫學博士 ●土田卯三郎君
ドクトル ●佐藤運雄君
ドクトル ●西山信光君
醫學士 ●澤崎寅制君

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山形支會の前副會長岩本しげ子送別紀念撮影

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第二百二十五號
（明治四十一年八月二十日發行）

身體及び其保護（續き）

ドクトル　富士川　游君　講演

段々と、身體のことを御話をして參つて、前回には神經のことを説きましたが、今回はその續きで、精神の變性といふことを御話いたそうと思ひます。

精神の變性といふのは、どんなものであるかと申しますと、これは精神の狀態が、常規を外づれたもので、しかしまだ精神の病氣ではなく、つまり病氣と健康との中程の狀態であります。そうして、精神の狀態が、斯ういふ風になるのは、世の中の進歩と共に、ます／＼盛になつて、來るのでありますから、個人の衞生の上からも、社會の衞生の上からも、十分に注意せねばならぬことであります。

少しく、委しく申しますと、精神の變性には、輕きものと、重きものとの別があつて、其種類は澤山あるが、その輕いものから、順を追て、御話すれば、次の通であります。

第一　精神調和障碍　これは、精神の變性の中で、一番輕いもので、精神の發育の、一方の方向が、常規に異なるものである。すなはち精神作用の全體の發育に一致平均を缺いて居るものである。精神を一個の身體と看做して、假にたとへて云ふときは、たとへば手が短かいとか、足が短かいとか、胸の發育が惡いとかいふやうに、精神の發育が、一方に足らぬ所がある。

此種の精神の變性では、普通の狀態を離れることが至て僅であるために、本人は勿論、これに接近するものも、その精神の變性であるといふことに氣がつ

かす、その著しい場合にありて、これを一種奇僻の人、奇妙な癖のある人とするに過ぎぬのであります。

それで、この種の精神變性のある兒童は、學校の課業にも堪えることが出來る。成長して職業に從事することも出來る。智力も一方には發育が惡くても、一方には發育が善く、中には想像力に富みて、巧みに虛言をいふものがある。意思は薄弱にして、づぼらなことが多く、行爲は衝動的のことが多いのである。

第二　色慾異常症　此種の精神變性では、色慾に、異常があらはれるもので、これには種々の狀態があります。

第三　體質性神經衰弱症　此種の精神の變性では生來その體質に異常があつて、神經衰弱の症候を呈するものである。すなはち、精神の仕事に堪へず、自身の疾患を心配し、動悸、苦悶等の症狀が顯はれる。前に云ふた精神調和障碍とは違つて、精神の能力には異常はなく、ただ疲勞が早く來るのと、身體の官能が不十分であるといふ感觸が、其人の頭の中にあるがために、精神の働作をなすことが六ケ敷なりて、一寸仕事をすれば、すぐに疲れ、好嫌の情が時々に變化し、すべて、物事に感動し易く、甚しきは鬱いで、世間を厭ひ、死を希ひ、若くはヒポコンデリー性となりて、自分の病氣を苦にし、若くは虛言を吐き、竊盜をなすやうなことが多い。

全體、神經衰弱症といふものは、神經をひどく使ふために起る病氣で、相當の治療を施すとなほるものでありますが、こゝに言ふ所の體質性神經衰弱症といふのは、生來、その體質に異常があつて、起るのでありますから、これを全治せしむるといふことは出來ぬ。これが普通の神經衰弱症と違つて居る所であります。

第四　强迫觀念狂　これは、强迫的の觀念があつて、自分では、如何にも馬鹿らしいことを承知しながらも、何事かが恐ろしくてたまらないとか、氣に掛つて仕樣がないとかいふので、この場合には、智

力には何等の異常もなく、たゞ一定の事物に對して不快の感情を有つて居つて、たとへば、ひどく不潔を恐れるとか、疾病を畏れるとか、又は一定の場所を恐れる等のことで、自分では、その理由のないことといふことを承知して居るけれども、どうしてもその不快の感情を除くことが出來ぬのであります。

第五　體質性發揚症ならびに體質性抑鬱症　これはその人の體質に、異常があるために、生來、精神が發揚したり、又は抑鬱したりするのでありますが。その精神發揚症の方では、精神の發育が偏跛で、智力にも足らぬ所があり、感情は移り易く、刺戟性で同情の心に少なく、自家感覺が高まつて、動もすれば亂暴の行をなし、人を罵つたり、博奕をしたり、行狀がいやしいのが常である。

體質性抑鬱症の方にありては、智力に足らぬ所があるものもあり、又智力の發育は、通常のものもあり、此種の精神變性の人は、常に世間の事物を悲觀し、些細の事に心配し、世をいとふの念深くして、到頭自殺するまでに至るものがある。

此の如き次第で、精神の變性といふものは、精神の疾病、すなはち精神病ではなく、さりとて健康の精神の狀態よりは、ずつと離れたものであるが、その精神變性には、身體變性を併せて居ることが多いのであります。身體の變性といふのも、精神の變性と同じやうに、身體の狀態が普通の定型を離れて居るもので、これは精神とは違ひ、外部に顯はれて居るから、誰にでもよくわかるのであります。

それで、身體の變性の徴候はどういふものであるかと云ひますと、大凡次の通であります。

身體の巨大又は矮小なるもの
小兒のやうな體格を有するもの
男にして女の如き體格を有するもの
女にして男の如き體格を有するもの
頭の形狀の變はりたるもの（小さきもの、尖りたるもの、曲りたるもの、歪斜のもの）
顎骨の突出するもの

口蓋の穹窿の高きもの
虹彩の左右同じからざるもの、色素の少なきもの
　虹彩の缺げたるもの
瞳孔の常に異なれるもの
色素性網膜炎
鼻梁の低きもの
鼻中隔の著しく斜なるもの
耳殼の小さきもの、大きいもの
耳輪の缺げたるもの、耳輪脚の曲れるもの、耳輪窩の缺げたるもの
ダルウイン氏結節（これは耳の後輪の内緣に小さき結節がありて突出して居るものである）
ウイデルムート型の耳（これは耳輪前面が、耳後輪面より高く隆起して居つて、同時に、耳垂が頰部に癒著して居るものである）
「マカクス」型の耳（之は耳尖端が開いて居るもので、「マカクス」と名づくる猿の耳の型である）
「ツエルコピテクス」型の耳（これは耳横輪の上部が尖つて居るもので、ツエルコピテクスと名づくる猿の耳の型である）
兎唇（みつくち）
狼咽
齒列の不整するもの
第二門齒の萎縮せるもの
乳齒の生へざるもの、又は乳齒の脱けざるもの
舌の畸形
舌及び脣の震戰もの
脊椎の數が異常なるもの
脊椎破裂
胸の形狀が漏斗狀のもの
先天性脫臼
多趾及び多指
先天性の指及び趾の癒著
扁平足
副乳（これは 乳房の數が四個、八個、又はその以上もあるもの）

毛髮の贅生
女子の鬚髭
毛髮の早く白くなるもの
早く禿頭となるもの
睾丸の小きもの
尿道破裂
兩角子宮
小兒性子宮
女子骨盤の畸形
心、肺、肝、脾、腸の構造及び位置の異常
第十肋骨の遊離せるもの

大凡、右のやうな、身體の異常があつて、それに、官能の上にも

言語構成の障碍
遺尿症
斜視
眼球震盪
吶吃
言語歩行の遲く始まるもの
麻痺、不全麻痺
動もすれば痙攣を起し易きもの

などの異常があつて、よく／＼身體を調べて見ると尋常のものとは大分異なつた所がある。しかし、右に舉げたる所の異常の一とつ二たつがあつたからとて、それで、その人は變性のものであるとは云はれぬのでありまして、それには、右の徴候の澤山のものが、備はつて居らねばならぬのであります。これは無論のことでありますが、これと反對に、精神の變性があつても、身體の變性は割合に明瞭でない場合もありまして、身體變性と精神變性とは、何時でも併行して居るとは云はれませぬ。

さて此の如き、變性は、そも／＼何によつて起るものであるかと云ひますに、これは全く遺傳に依るもので、その主なる原因は次の通りであります。

父母が酒を飮むこと（父母は平生は酒を飮ざるも偶に酒を飮みたる折に出來たる小兒）

父母が黴毒、結核等に罹れること
父母が精神病にかゝれること、又は神經質のこと
婚姻の年齡が、甚だしく後れること
生活の困難

すべて、世が文明になるに從ひて、おのづから人の生活に起るべきことが、その原因になつて來るのでありますから、精神の變性は、身體の變性と共に、日に日に、その數を增して來るものと云はねばなりませぬ、又實際に、此の如き變性のものが澤山になつて、學校にありては成績不良の兒童となり、社會にありては不良少年として排斥せられ、その外、竊盜、詐僞、あらゆる犯罪の大部分を占むるものが、この變性のものから出づるといふことは、衞生上は勿論、敎育上、社會上からも深く注意せねばならぬことであると信じます。

そうして、かくの如き變性はどうすれば治癒するかといひますと、これは前にも申した通り、已に出來たものは、これを治ほすことが出來ぬのでありますが、これを未發に防ぐといふことは立派に出來るので、つまり父たり母たるものは、平生その身をつつしむといふ一事に歸するのであります、ちよつと變性のあらましを申上げたいと存じまして……。

第六　病的性格　この場合にありては、思考、行爲などの精神作用が一側的に、一方に發育することがその度に過るがために、その人の性格が、生理的の常規を離るるに至るもので、この種類に屬するものには種々ありますが、その中で著しいものを擧げて見れば、病的虚言を吐くものがある。これは主に想像力が、病氣のために、高まるために、その言ふことが眞實で無いといふことになるのであります。自家感覺の高まるがために、些少たりとも、自分に不利益のことがあれば、躍起となつて、その權利を爭ひ、又は復讎の念が甚しいものがある。又は些々たる利慾に眩まされて、輕ろしく信じ、或は感情に馳せて迷信し、所謂宗敎狂の状態をあらはすものがある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又は懶惰、放逸にして巧に自家の非行をかくし、廉耻の心なく、外界の誘惑に乗せられやすいものがある。

叢談

馬鹿につける藥

か、め、君

日本の昔からの諺に『馬鹿につける藥は無い』と云つて居ります。何時何處の端へ行つても、馬鹿ばかりは何とも致し方が有るまいと歎じた古人の名言で有りまして、先哲も愚人には手のつけ様が無かつたものと思はれます。併し乍ら當今は餘程學問も進み、世も開けてまゐりましたから、少し位は如何にかすれば馬鹿も賢く成るだらうと思ふて居る人も有るかも知れぬ。けれども、今實際に、醫者の力で馬鹿も賢く成る方法が有るんだと云つたら、誰も皆『まさか』と驚くに相違有りません。私は決して人を驚かして獨り自ら喜ぶ譯でも有りません、事實を事實として馬鹿につける藥も追々出來て來たと云ふ事を申上げやうと思ひます。

馬鹿につける藥と云つても、強ちどの様な馬鹿にでも其藥を一服飲ましたら、必ず賢き人に成ると云ふ様な名藥を調合する様に成つたと云ふ譯では有りませんが、つまり馬鹿にも色々種類が澤山有りまして其馬鹿に成つた原因が又甚だ多様で有りますので、其中には昔から明に其原因が分つて居たのも有りましたけれど、全く不明で有つたのも多いので有ります。『何故かうちの小兒は智識が充分で無い、覺へが惡い、ぼんやりして居る様だ』とは思ひながら、親も分らず、醫者も分らず、本人は尚更ら平氣の平左衛門で、一生愚人の生涯を送つて居た様なのが隨分有る。それが近來では追々と其原因が明に成つて來ると共に、あの人の愚なのは、身體の何處に病氣があるから來たのであつて、如何な治療法を施せば治

癒るとか云ふ風の事が、追々研究され、明に成つて來まして、今では種々の方面に、馬鹿につける藥が發見せらるゝ樣に成つて來たので有ります。其內で今日は最も著しい效顯の有る、興味の有る病氣の事を一つ申し上げて、其他は又次に機會の有つた時に申し上げることゝしやう。

小學校から中學校の始め位の年配の小兒で、身體は別段不健全と云ふ樣子も無いが、如何云ふものか、學校の成績が宜しく無い、如何程敎へられても一向覺えない、記憶力が甚だ惡い、家庭で勵ましても先生に叱られても一向勉强が進まぬ、所謂『ぐず』に成つて仕舞つて勉强する氣に成らぬ、物事が甚だ忘れ易い、容貌も何處と無く『ぼんやり』して居る、學校の方でも低能兒として普通の取扱ひをしなく成り、家庭でも遂に持て餘してしまふと云ふ風に成る。此樣な小兒が一度醫者の手許に來て、適當な診斷と治療法とを得れば、忽ちにして見違へる樣な面附と成り、記憶もよく成り、元氣も出て、勉强もする、學問もよく進むと云ふ有樣に成るので有ります。此病氣は近來に成つて追々よく知られて來て、日本にも隨分多くあると云ふ事が知れ、治療法も至極簡單に成つて來たので有ります。偖て此病氣の名は

腺樣暴殖

と云ふので有りまして、其原因、病狀、治療法等を簡單に述べて見ましやう。口を開いて奧を覗いて見るとその兩側の二本の柱の間に、小さい團子の樣なものが左右一つ宛附いて居る。之れは扁桃腺と云ひまして風邪や「ヂフテリヤ」の時等に腫れ上つて大變苦む處で有ります。扁桃腺炎等と云つて、今は大抵の人はよく知つて居られます。處が此外に今一つ扁桃腺と云ふのが有りまして之れも矢張、咽頭の痛いと云ふ時には、前のと同じく侵されるので有りますが、此方はあまり普通の人達には注意されず、知られても居らぬ樣で有ります。此前のを口蓋の扁桃腺後のを咽頭の扁桃腺と云つて之れは鼻咽頭腔の方に有るので有ります。偖て今日述べやうとして居る病

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氣は此鼻咽頭腔の扁桃腺の疾患で有りまして、此病氣の本體は如何かと申しますと、一體此處の扁桃腺は小兒の間にはよく發達して居て、年をとる程小さく成るもので有りますが、之れが或る兒童には殊に甚だしく此扁桃腺が增殖し、暴殖し來つて、之れが甚だ大なものと成ります爲めに、其結果として、鼻がつまつて來たり、口の形が變つて來たり、咽頭喉頭等にも其作用を受け、後には反射的に種々の器官の障碍や、神經的の症狀を呈すると云ふのが此病氣の大體なので有ります。此樣な變な處に病氣の本源が有るのだと云ふ事を、始めに醫者が如何して發見したかと申しますと、今から十年程以前に、獨逸國のウイルヘルム、マイエルと云ふ醫者の許へ一人の聾啞の患者が來ましたが、此病人の鼻がつまつて居て風が通らぬので、鼻の中に何か腫物でも有るかしらんと思つて、よく調べて見たが一向變化を認めない、不思議に思つたから口から指を入れて、鼻咽頭即ち鼻の奧の方を探つて見ると、其處に大きな柔い腫物が有る、之れは變だと思つて早速之を切り取つて仕舞つた處が、鼻は早速よくなつて風通りの自由自在になつた許りでなく、奇妙にも、それと共に耳も聞える樣に成り、口も利ける樣に成つた。これが即ち此所に申す腺樣暴殖で有つたので有りまして、之れ以來俄に、鼻咽頭腔の方に醫者が非常に注意する樣に成つて今日の進歩を來たしたので有ります。此爲に此病氣を一名マイエル氏病とも云ふので有ります。

此疾病の原因に就ては未だ十分明なる說明はついて居りません。前述の如く此扁桃腺——ルシユカ氏扁桃腺とも申しますが——は小兒には誰にでも多少は有るもので、大人に成つては無く成るもので有りますが、此普通にある兒童の扁桃腺か如何なる原因で、前申した樣に大きく成るのかと云ふ事に就いては、學者によつて種々樣々の說を成して居ります。或人は之れは遺傳に因るものだと申しますが、成程遺傳に因つて生じて居る樣な例も隨分見られて居る

様で有ります。又或人は腺病質と云つて小兒に瘰癧等が出來る弱々しい體質と此病との關係を說いて、腺様暴殖の病人は皆多少腺病質で有るか、又は其經過中に腺病を起すものであるから、腺病質の人は腺様暴殖を起し易いと述べて居ります。之れも一理ある說で有ります。又我る人は結核との關係を說いて腺様暴殖の患者は後年に至りて結核の病に罹り易い傾向が有る、又腺様暴殖の組織をとつて之れを顯微鏡下に照して見ると、多數の結核菌を見る事が出來ると證明して居ります、之れも一理ある考で有りませう。有る人は又麻疹との關係を述べて、普通の小兒にある扁桃腺が、麻疹を病らつた時等に、扁桃腺の炎症を起して其爲に漸次暴殖するに至るものだと申して居ります。又咽頭や鼻咽頭腔の加答兒が原因と成ると云ふ人もあります。何れ之等の凡てが多少の原因には成つて居るので有りませう。

、、、、、、、

此病氣の來る年齡はと申しますと、之れは哺乳兒にも學齡兒童にも來る様で有りますが、哺乳兒のは比較的少數で有りまして、五六歲から十四五歲位の學齡兒童に最も多數であります、此年頃の小兒を調べて見れば百人に五六人位は此病を持つて居ります。それより年を取る程少く成つて參りますが、二十代にはまだ往々ありまして三十代からずつと少なく成ります、けれども六十歲の人にも見たと云ふ報告が有りますから、全然無いとも云ふ事は出來ません。斯く年を取る程少ないと云ふのは、此疾病が老人に成る程自然に治癒して行く傾向が有るからで有りませう。

、、、、、、

此疾病の徴候は如何かと申しますと

、、、、、、、

第一に顏貌が變つて來る　口が半ば開いて、鼻から脣へかけての溝が淺く成つて見えなく成り、鼻翼が狹く成り、目尻が下り、何處と無く『ぼんやり』して而附に元氣が無く、鈍い様に見えて來ます。

、、、、、

第二に鼻がつまる　鼻のつまるには二様ありまして一つは此腺様暴殖で腺が大きく成つた爲につまるのと、今一つは此暴殖の爲に此處より上部の方に鬱血

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を來して、鼻の中の下甲介が鬱血して大きく成り、從つて其爲に鼻がつまるので有ります。だから其つまり方も二樣あつて、甲の時には息を呼出する時に障碍と成り、乙の場合では鼻の中につまるのだから呼氣には左程でも無いが吸氣の時に大變息苦しく感ずるので有ります。

第三に耳が聞こえなく成る　耳と鼻とは內部では共通のもので有る事は、誰方も御承知の事だらうと思ひますが、其兩者を通ずる歐氏管と云ふのが鼻咽頭腔に開いて居て、それが丁度腺樣暴殖のある近傍に開いて居るので有りますから、關係の深いのは明な事で有ります。如何に重聽が起るかと申しますと、腺樣暴殖が益々烈しく成つて來て、遂に歐氏管の口を閉ぢて仕舞ふので、歐氏管の中に加答兒を起し、風は通らなく成り、續いて中耳の方の加答兒を引起して重聽を來たすので有ります。時に又腺樣暴殖の周圍には常に炎性を起し易いので、其炎性が追々と傳はつて歐氏管炎と成り、中耳炎と成つて慢性の炎症の爲に聞こえなく成るのも有ります。往々學校の兒童で、耳だれの出る者を調べて見ると、明に中耳炎の原因の分らぬものには腺樣暴殖の患者を見出す事が有るので有ります。此樣な事は親達が豫め承知して居て、早く醫者に見せる樣にすれは、小兒を長く苦しむる事は無くて濟む事となります。

第四に習慣性の鼻血が出る　之れも矢張腺樣暴殖の爲に上氣道に鬱血が起つて、其爲に何か機會のある每に鼻血と成つて出て來るので有ります。學齡兒童位の少年に、かく反復的に鼻血の出ると云ふ樣な事は、左程屢々來るものでは有りませんから　此樣な事が有つたら早速腺樣暴殖に疑を置かねば成りません。

第五には口の形が變つて來る　顎の前後の彎曲の度が增して尖り來り、其爲に齒は一列に一つ宛並ぶ事の出來ぬ樣に成つて重なり合ふ。又上下の彎曲も大に增して、上顎を見ると上の方に高く深く成つて居る、之れは何故此樣な變化を來したかと云ふと、鼻

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

がつまつて居るから、鼻で呼吸する事が出來ず、已を得ず常に口を開いて口で呼吸をして居る爲め、長い間に此様な變化を來す様に成つたので有ります。

第六に風邪に罹り易い　鼻で呼吸をせずして、口でばかり呼吸するから風邪に罹り易いのであります。一體呼吸は鼻ですると定まつたものであるから、鼻の方の途には呼吸の準備が出來て居て、種々の毒物が入つて來ても害にならぬ様、異物が入つてくれば鼻の中の毛に引掛けて置いて外に出す様に、ちやんと防備が調つて居りますけれど、口の方には其様な装置は有りませんから、種々の害物は何の妨げも無く入り來つて、風邪をも起し易く、又其毒は漸次深く入るから咽喉加答兒や氣管枝加答兒等をも起し易く成るので有ります。

第七には胸部の變形を來たす　上記の様によく風邪や、氣管枝加多兒等に罹り易い爲め、長い間には胸部の發育が大に妨げられて、普通の小兒の胸に比すれば大に形が異なるので有ります。何分此疾病の來るのは、丁度發育最中の學齢兒童時代で有りますから、小さい事でも時を經る間には、其影響が甚だ大きく、變形等も著しく成つて來るので有ります。

第八には反射的神經症であります　之れは前にも一寸述べて置きましたが、種々の方面に神經症状を起して來て、隨分著しく烈しく起るので有りますが、此病氣の本體に氣が附かぬ時には、一向合點の行かぬ様な事が有る。時には全く生れ附いての痴愚かと思はれる様な事もあり、時には又他の器官の重い疾病かと疑はれる様な事も有ります。扨て此反射的神經症状として最も著しいのは記憶力の減退で有ります。思想が散漫に成つて、明に考へをまとめる事が出來ず、見聞した事を一つの考として頭の中に止めて置く事が出來なく成り、又一度覺えた事でも非常に忘れ易く成るので有ります。學校でも一向讀み書きが進まない、何事も鈍く成り怠惰に成つて、人と共に進み行く事が出來ず、遂には全く低能兒扱ひにせられても、それが結句氣樂でよいと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

風に成つて仕舞ふので有ります。だから此疾病の診斷が不十分で有つた時には、之れを矢張一つの低能兒と考へて、低能兒敎育所に入れてあつた、それを發見して、手術したら直に立派な兒童と成つたと云ふ樣な例は西洋の報告には往々見られました。次に此腺樣繁殖のため癲癇や舞踏病等が起り、或はそれ程でなくとも癲癇樣の發作の來る事が有ります。又喘息の起る事も屢ゝで、其他遺小便や、痙攣や、心悸昂進や種々の症狀を呈し、又蕁麻疹の如き皮膚の疾病も亦一つの神經症狀として伴ひ來る事が有ります。

以上の如く症狀が實に複雜で有りまして、此疾病に氣のつかぬ時には、往々誤られて、醫者も見過ごして仕舞ふ樣な事が度々あるので有ります。だから學校兒童で、前記の顏貌を備へて居て、耳が遠かつたり、鼻がつまつて居たりした時には、先づ之に疑を置いて、よく此局所を調べて貰はねば成りません。殊に診斷上必要なのは前記の顏貌で有りまして、斯道の名醫は患者が室内に入り來るや否や、一語を發するを待たずして、其面附で直に腺樣繁殖だと云ふ診斷をつけるとの事で有ります。

此疾病の傳播狀態は如何かと申ますと、發見者たるマイエル氏は、始めは之れは海岸病であると申して居りましたが、追々研究の結果、決して海岸に限るものでは無い事が明に成りまして、今日では何處にでも在り得るものと成つて居ります。

此疾病の治療法は如何かと申しますと、實に簡單なもので有りまして、服藥するにも、つけ藥を用ゐるにも及ばす、只一寸した手術をして之を取りさればよいので有ります。土臺の硬い處へ、餘計な腫物が附いて居るのでありますから、之を切り去ればよいので、それには適當な器械が有りまして、譯も無く引掛けて切り取つて來る樣に成つて居ます。何しろ長い間、何の罪も無い者が馬鹿扱ひにせられて、ぼんやりして口を開いて、耳が聞えなかつたり、鼻がつまつたり、さんざ苦痛を嘗めて居たのが、一寸一

瞬間の手術で全治すると云ふのですから、先づ此樣な結構な話は少ないだらうと思はれます。馬鹿につける藥と掲げた標題も強ち誇大とは申されますまい。

身體の脂肪

H、K君

人體のあぶらと申す言葉は一般に二樣の意味に使はれて居ります、通例は寧ろ手のあぶら、足のあぶら若くは膚があぶらぎるなど云ふ方に用ひられますが之は皮膚を軟かに潤す爲に皮膚の中の皮脂腺と申すものから絶えず泌み出る脂肪に富んだ液の事を言ふのであります。併し茲にお話し仕樣とする脂肪と云ふのはもつと廣い意味で身體一般の組織の間にあるもので、前に申した所謂手足のあぶらなどゝは全く區別しなければなりませぬ。皆樣が召し上る野獸や鳥類の肉にも時々白いあぶら身が附て居る事がありませうが、人間の體にも丁度同じ樣な脂肪の塊つた處がありまして今茲にお話し仕樣とするのは全く其方の意味に於けるあぶらであります。

脂肪は人體のうち主なる成分の一つでありまして普通の人では身體全體の目方の約一割五分は此脂肪の目方だと申す事です、而して此脂肪は身體中大抵どこにでもありますが其分量は處によりて一定しませぬ。脂肪の一番多いのは頰とお臀、それから手のひら、足の裏などです。之に反してその一番少く或は殆ど無いと云つてもよい位なのは眼瞼と鼻さきなどです。病氣其他の原因で身體の瘦せると云ふのは重に此脂肪の分量の少くなるのですが、外の部分の脂肪が悉皆なくなつた後でも眼窩や頰、膝膕、お臀などには何時までもまた多少の脂肪が殘つて居ます。又脂肪は身體の組織の中で何處にあるかと申しますと、重に皮膚と筋肉との間の皮下組織と云ふ處に溜つて居て、譬へて申せば粟餅でも重ねた樣に見えます、而して其脂肪の性質の細い事は人々により又は

箇所と食物とによつて多少違て居る點もある相ですが細い處はまだ充分な研究が行屆て居ませぬ。

以上で脂肪が身體の中にある樣子はざつとお話致した積りですが、それでは此等の脂肪は何の爲になる乎と申しますと、重な役目は次の四箇條であります。

第一、身體の格恰を好くし皮膚の色澤を美しくす。

第二、身體の角張つた處の擦れるのを防ぐ。

第三、身體の冷えるのを防ぐ。

第四、體溫の原料の貯蓄となる。

男子の體格を婦人の體格に比べて最も著しい相違と申しますのは男子の體格の所謂嚴丈に見える事であります。男子でも女子でも素と其骨格や筋肉にはさしたる相違はあるものではありませぬ、それが組立つて仕舞てからは如何して恁うも違ふものかと申しますと、夫は男子の方では上に申しました皮下の脂肪組織が婦人程豐かには發達して居ない爲であります。脂肪組織が貧弱なために骨組の角張た所が外に顯はれ、又筋肉の附著工合が充分掩ひ隱す事が出來ず、力の標徴たる筋力の動くのが外から見る事が出來、卽ち力瘤などがよく見えて夫れで嚴丈に見えるのであります。之に反して御婦人の方では、皮膚が實に華奢で彈力に富みて居る上に、其皮下の脂肪組織が誠によく發育して居るので、骨格の角々しい所や筋肉の凸凹した處がすつかり掩ひ隱されて一樣に滑らかに美しい圓味を帶る樣になるのです、美術家などは御婦人の身體は如何しても模倣する事のできぬ位美しい尊い曲線の集りから成立つと云ふ事をよく申しますが、其美しい曲線の因て來る處も實は此皮下に隱れたる脂肪組織の賜に外ならぬのであります。其證據には男子でもひどく肥てる方は膚がいくらか婦人に近寄り又婦人でも餘り痩てる方は男子の身體と餘り替りがない位嚴丈に見えるのを考へても分ります。洋服屋が洋服を仕立てる時に恰好をよくする爲に、肩や胸に羽毛などを入れて膨らます事がありますが、吾々の身體の脂肪も畢竟之と同じ

様な働きをなすものであります。

脂肪組織が婦人の美容に關係を持て居る事は如斯大なるものでありますから、健全で且つ美しい婦人と云へば脂肪組織の發育が圓滿であると云ふ事も必要な條件の一つであります。

脂肪の發育が惡く身體のひどく瘦せてる方は誠に弱弱し相で健全の美を缺き何所か痛ましい様な思ひを致させます。然らばと云つて肥る事の度を過ぎたのも是又美を損する事少なくありませぬ。餘り肥り過ぎると、素と脂肪は身體各部均等に殖えるものではありませぬゆゑ、從つて身體各部の美しい均合と調和とを失つて見苦くなり、又皮膚が張りすぎる爲めに特に腹部などには妊娠の時に見る様な色づいた條や斑點ができたりし、且つ一度張りつめた皮膚は永久に彈力收縮の性を失つて伸びた儘で大きな皺となつたりなどして誠に見苦しくなります。

餘り肥り過ぎると就中顔の様子が何となく鈍く卑しく見える傾きがあります。元來人の顔には極めて狹い面積の内に眉だとか目だとか、それから鼻、口、耳、と澤山の道具が揃つて居て、特に其機關が夫々生理的の運動をなす事の外に、今一つ誠に微妙な精神の働きを現はす事、即ち表情の運動と云ふ大切な複雑な役目を持て居ますから、此部の筋肉は之を手や足の様に只極簡單な運動をすればよろしい他の部分の筋肉に比べますと、顔の筋肉は其束が極めて小さく數が多く且つ複雑な方向に走つて居ます。而して顔以外の場所では多くは皮膚と筋肉との間に脂肪の組織があるのですが、顔では筋肉の運動も極めて細かい處を表はす事の必要からして此處の筋肉だけは外と違つて皮膚にぢかに附着して居るのが多くあります、從つて顔では脂肪は目窩と頬とを除いた外では皮膚と筋肉との間に結著する餘地が少いのです。顔では此等の筋肉の束と束との堺が皺を作りますので其中でも眉の近邊、下唇と顋との間、小鼻と口の端、口の端から顋に行く皺などが最も目に立ちます。此等の皺は顔の美容と品位とを作るの

に極めて必要なものでありますが餘りひどく肥りすぎて頰が脂肪澤山になりますと上にお話した顔の皺が餘り深くなつて目立すぎ、夫と同時に、目元口元其他の場所に寄る表情に大切な小皺ができ難くなり、夫で何處ともなく表情が鈍く卑しい樣子となるのです、其外我國で愛嬌あるものとして持囃される笑凹や、外國で珍重せられる頤の小窩なども餘り肥り過た方には之を見ませぬ。

適當の分量の脂肪が體の形を美しくする事は上に說明した通ですが、其外皮膚の色澤を美しくする點に於ても之又密接なる關係があるものであります。脂肪の本來の色は純白に少しく黃味を含んで居りますから、其うつきりとした色が皮膚の層を透して白く水々して見え、特に白い脂肪層の上にある眞皮の細い血管は、後底の眞白い爲に益々際立つて櫻色に見え透きます、皮膚が如何程白く濃やかでも瘦てる方では其色合がまた充分に美しいとは申されませぬ、その下に豐な脂肪組織があつて初めて水も滴り相な且つ微かに櫻の樣な色を帶びた美しい肌合となるのであります。前にも申した通り普通の脂肪は白くして少し黃味を帶て居ますが、夫が或る病氣では其黃いろい甚しく濃くなる事があります、恁云ふ場合には皮膚も從て又殊に汚い黃色を呈する樣になります、又身體の工合が惡く脂肪が追々減てゆく時には脂肪の減る前に先づ其黃いろが淡く消失するものであります、其樣になりますと、其方は假令肥つては居ても皮膚の色合が何となく白晒けて、當前の脂肪の時と異ります、脂肪の黃色は極めて弱いものですが、夫でもそれが皮膚の色澤に及ぼす力は如斯著しいものであります。

第二に皮下の脂肪は亦空氣枕や羽毛蒲團と同じ理で身體の骨張つた部分の膚觸りを柔らかにする働きをなします。體の形を美しくする目的の外に、肩、臀部、手の平、足の裏などに脂肪の多いのは、此等の部分は物を握つたり坐つたりなどする時に、始終外に擦れる處ですから之が瘦せて居て脂肪の組織が貧

弱ですと起ち居に痛みを覺える、然るに其處に脂肪の厚い層がありますと其樣な心配が在りませぬ。其外又腋の下や膝の後ろなどの樣に大切な血管や神經が割合に淺い所に通る場所では澤山の脂肪が其周りを埋めて丁度羽毛蒲團か何かにくるまつた樣に保護せられて居ります。

次に皮下の脂肪組織が身體の冷えるのを防ぐ事は皆樣も平生實際に於て充分御經驗なさるゝ所であります、素と脂肪と申す物は、溫熱を誠に傳導し難い性質のものですから、甚しく肥つた方では身體の內の溫熱を少しでも外に放散させまいと脂肪の蒲團でぴつたり全身を包んで居るのも同理です、夫故に肥つた方は冬の寒い時節でも體の冷へるのが防がれてひどい寒さを致さぬのです、併し同じ理由で夏は人一倍の暑さをせなければなりませぬ、餘り肥り過ぎた方は夏の眞中でも綿の厚い丹前か何かを著て居るのと同じ理ですから見て居る方でも誠にお暑相なのです。

最後に身體の脂肪の一番大切な働きは之が體內で燃されて體溫の原料となる事です。脂肪の中には酸素が少く、炭素と水素とが澤山に含まれて居ますから誠に燃へ易く且つ少しの分量が澤山の熱量を發生する事ができます。人の身體は何時でも定つた溫度を維持して居るものですから、其溫熱を拵へる脂肪も體の內で始終休みなく燃されて居るのであります、恁云ふ風に體內の脂肪が絕えて燃されて使ひ盡されると同時に一方では又吾々が每日の食物と一所に新らしい脂肪を身體の內に取こむのです、而して此絕えず體內で使ひ盡される脂肪の分量と、食物と一所に取こむ脂肪の分量とが同じであれば何時まで經つても體內に脂肪の餘分と云ふものが殘らぬ理ですが夫れが取込む方の分量が少しでも多いと、多い丈は貯蓄せられて皮下の間に脂肪組織として溜るのであります。特に脂肪は砂糖、澱粉、穀物、野菜などの中に澤山含まれて居る炭化水素からもできるものですから、餘分にたべた脂肪分ばかりでなく、炭化水

素の餘分もまた體內で脂肪に變つて夫れも一所になつて貯へられるのだと云ふ事です。して見れば身體の脂肪組織は貯金をすると同じ樣なものであります夫れで病氣のために食物が思ふ樣にたべられぬか何かで、取込む脂肪許りでは分量が足らぬ時には、兼て貯へて置かれた此皮下の脂肪が直ちに其不足を補ふのです、丁度貯金をして置て夫れを不時の入用の時に引出して使ふのと同じ有樣です。恁云ふ風に取込む榮養分が不足する時には、初めはそれを此皮下脂肪で補ひますがそれでも尚足らず、身體の脂肪が悉皆使切てしまはれますと今度は身體の內で一番大切な蛋白質が漸々減つて行くのです、ですから肥てる方は少し位榮養が不足しても最初から蛋白質の甚だしく減る樣な事はありませぬが、瘦せてる方では少許り榮養が不足しても直ぐに身體の蛋白質に影響を及ぼします。ですから病氣其外ちつと許り體の工合が惡くても忽にげつそり憔悴れぬ爲には、如何しても平生から食事に注意して適度の脂肪が殘る位に攝養をしなければなりませぬ。次には體の脂肪のできる理、並に瘦た方、肥た方に對する養生法などをお話し致し度と思ひます。

遺傳の話

東京醫科大學　神尾驥君

遺傳といふ事は此地球上の生物を支配する最も强大なる勢力の一つであります、そしてあまりに普及して居るものでありますから、丁度生物が日光の必要を忘るゝと同じ樣に、格段の場合でなければ注意を拂ひません、例へば人間にて申せば、親の容貌また毛髮の濃淡其他病氣等が遺傳すると云ふ事はよく人の知る所でありますが、併し遺傳とは單に兩親の性質が生殖によりて其子に傳はり、子孫は某祖先に類似するといふ事實を云ひあらはすものでありますから、遺傳は決してさる特別な場合にばかり見らるるものではありません、蛾の子は蛾で而かも同じ形、

同じ大さの蛾であります、鷄の卵から雀や鳩が生れた事はありません、生るるものはいつでも鷄の子ばかりであります、其他犬の子は犬で人の子は人であります、此等は極めて普通の事でありますが、此の兩親の有する性質が子孫に傳はるといふ事は、前に述べたやうな、大體の事ばかりでなく、人の目に及ばないやうな小さな所まで行屆いて居ります、また外形ばかりでなく、其の運動する形、姿勢、習慣等に迄及んで居ります、其は總ての動物にもあらはれて居りますが、人間に於て最も著明に見られます、此は多分吾々が人間を觀察する事に於て、敏捷になつて居るものだらう、特別目だちて見えるのであります、併し、遺傳と申しまして、親の有して居る性質の總てが遺傳するものではありません、ある性質は遺傳しない事があります、また、其子に表はれずに、其孫、または數代の後に表はるる事があります、此子は祖父に似て居ると云ふ事は通俗にもよく云ふ事であります、此時には祖父の性質が其子に直接に傳はらず、其孫に傳はつたのであります、此の性質は二代三代ばかりでなく、數百代の間隱れて居て、其後突然表はる事があります。

其例は屢〻家畜、樹木等に見られます、金魚屋は金魚の子が鮒となる事を少しも珍しいものとは思つて居りません、然し前に申しました通り犬の子は常に犬であるとすれば此事實は遺傳の法則を破りはしないかとの疑を起します、然しそれは皮想の見解でありまして金魚はもと鮒を飼つて、食物其他の方法で金魚にしたものであります、故にある數代の後に於て其鮒であつた時代の先祖の性質が此所にあらはれたのであります、其他植木屋が數代數十代を經て作りあげた、草花にもよく其の元の形にかへる事あるは、植木屋のよく知つて居る所であります、此事實は、ダーウヰンが生物進化論をときました時に其の進化に反對したる潮流即ち退化といふ事實をあらはして居ります、總て生物は元は唯一種の簡單なものでありましたが、後種々の境遇の變化其他の影響を

うけて、今日の高等動植物となつたのであります、これを進化と申します、其進化した動物又は植物が數百代前の祖先が有したる性質を表はしたとすれば其はいふまでもなく退化といふべきものでありませう、近來になりまして、生物が其の一代の間に獲得した性質が遺傳し得るかといふ問題が起りまして、大に研究され、爭論せられました、先天的にもつて居る性質が遺傳する事は疑を容れない事實でありますが、生物一代の間に受け得たる性質、例へば、不具になつたとか、何か病氣になつたとかいふ事が遺傳するのと云ふ事は問題であります、こゝに病氣と申しますは、彼の傳染し得る病氣の事でありません、普通に傳染しないと認められて居る病氣例へば胃病といふ様なものゝ事であります。

ダーウヰン等は此後天的性質も遺傳すると申しましたが、ワイスマンといふ人は長き實驗の結果全然之を否認いたしまして、遺傳せらるゝ性質は唯た其胎生時に於て得たる性質のみであると申しました、そして種々の實驗により證明しやうとつとめました、氏は十二の白鼠(六疋の雄、六疋の雌)の尾をきりまして飼養いたしました、そして其の五代目の子孫に及びまして、總數が八百四十九箇に達しましたが、其中には一疋も尾を有せざるものがありませんでした、同様な實驗は幾度となく繰返されましたが常に成蹟はワイスマンのと同じ結果になります、然し此れのみで後天性の畸形病氣が遺傳しないといふ判斷を下すにはあまりに早すぎるのであります。

之に反して反對論者の方からは反對の事實をあげて居ります、最も手近な例は、日本の猫の尾であります、日本の猫の尾は多くは短く、且つ歪んで居ります、此は昔より猫の尾を切る習慣がありましたが、之が數代數十代の間續け行はれたので遂に遺傳するに至つたといふ論者があります、併しワイスマンの考へでは胎生中に尾のなくなつた畸形猫が度々出來たのが傳はつて來たのであつて、人が猫の尾を切つたからではないと說明します。

兎に角常識を以て考へても尾を切つたとか、指を失つたとかいふやうな事が直接に遺傳するといふ事は如何にも不自然なやうに思はれます、何となれば遺傳とは卵子及び精蟲に其の父母の性質が遺傳するものでありますが、偶然の負傷が其の卵子または精蟲に何程の影響を及ぼすものでせうか、受け取られぬ事であります、若し其の負傷が生殖に關係のあるものでもあつたならば、或は遺傳する事があるかも知れませんが、例へば人の聲帶は生殖作用と一定の關係がありまして、人間が生殖し得る時期に達しますと急に發育いたします、故に人の聲は此の時代に於て急に變ります、然るに幼時に去勢した男子にては此の發育は起りませんで、長く幼時の狀態を保持いたします、故に其の聲はいつまでも少年の其れの如く美しいのであります、此理を應用して昔羅馬の劇場にて、ソプラノの壯大なる美聲を以て、世界各國幾多の人士を誘惑したりし、其の聲樂家は皆去勢した男子でありました、斯る關係のある機官に負傷を生じたとすれば、或は遺傳するかも知れません、猶卵子、精蟲または胎兒に直接に影響を及ぼす樣な負傷にありて、負傷其物が遺傳するか、または負傷の其胎兒に及ぼせる影響丈けが遺傳するのかは亦充分の研究がありません。

ワイマスンの說は然しまた充分でない所もあります若し後天的性質が全く遺傳しないとすれば、說明の出來ない事實もある樣に思はれます、極めて下等なる生物にて原蟲と稱する動物の中には其生殖は無性的であります、卽ち男女の別を有しませんで、其生殖といふのは、たゞ其の母體が二つに分れて二個の子體となるのであります、此の動物にて見るに、一つの母より生じたる數個の子孫の中には、元の母體と大に異なれるものも少なくありません、して見ると、此は外界よりうけた影響の結果生じたる變形に相違ありません、また或る動物には自から居る所の周圍の色によりて色を變へるものがあります、斯かる動物を數代の間一定の色の所に飼つて置きて後他

の色の所にうつします時に、其動物の色は二代或は數代の間其第一の色を保持する事があります、此は後天的性質が遺傳する例であります。

若しまた後天的性質が全く遺傳しないとすれば、進化論といふ事は成立し得ない事となります、進化とは動物が外界の境遇に適應し、それが子孫に傳はるものでありまして唯一代の間に得た性質ではなく、數代の間に漸々と享け得たる性質であります、故に我々はワイスマンの説にのみ贊成する事は出來ません、後天的の性質は必ずしも遺傳しなければならないものではなく、其の性質を與ふる樣な素因が數代の間引續き存在して居る時は、其性質は其子孫に長く遺傳し得るものであるといはねばなりません。

最後に病氣が遺傳するかといふ事に付ても、非常に爭論され攻究されました、我々は精神病や其他の神經系統の病氣は遺傳するものであるといひますが、其れが事實であるかに付ては此迄誰も積極的に說明した人はありません、然し精神病患者、ヒステリー等は、或る一族の中に數人を見る事が多いのは事實であります、また、一家族の數代を通じて數人の患者を出す事があります、此等の所から見れば、神經系統に屬する病氣は遺傳するものらしいのであります。

結核が遺傳するかといふ事に付ては、非常に精密に實驗せられました、統計によれば、結核の親には結核性の子供が多い事は疑ふの餘地を有しません、併し此子の結核が果して遺傳の爲めであるか、または傳染の爲めかといふ事は大問題であります、先づ父の結核が子に傳はるかといふ事に付ては、今は否定されて居ります、結核菌が實際精液中に居らざる時は勿論其子には傳へられませんが、假令結核菌が精液中に居つたにせよ、女子の卵子と結合する精蟲は健全なものでなくてはなりません。

既に黴菌の爲めに弱められてある精蟲に妊娠せしむる力を有しません、故に男子の結核は其子には遺傳しないものと認められて居ります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子の結核は、如何なるものか此れはまだ充分なる解決を見ませんが、現今の學者は多く遺傳しないといふ方に傾いて居ります、卵子に結核菌が居れば勿論卵子は發育する能力を有しません故に遺傳し得るとすれば、それは胎兒である間に母體より傳へらるゝので所謂胎中傳染であります、是もまだ積極的の證據はありません、或る人は結核性の母の胎盤に結核菌を見た例をあげて居りますが、胎兒に見た人はない樣であります。

然らば何故に結核性の父母の子には結核が多いかといふに此は結核に罹り易き體質が遺傳するのであると申して居ります、且つ結核性患者と常に起居して居りますから、傳染する機會が甚だ多いのも一大原因でありませう。

此他にも素質の遺傳の爲め或る病氣の起り易き基となるものが少くありません、種々の所へ出來る癌腫の如きも其の一例であります、神經系統の疾病が遺傳すると申しますのも、或は其素質の遺傳であるのかも知れません、病氣其物が遺傳する事を確められたのは是迄黴毒と天然痘ばかりであります、初生兒が生れながらにして痘痕を有しまたは、花柳病の發生せるを見た例は、なかなか澤山あります。

癩病が遺傳するが、此もまだ充分な事はわかりません、以前は癩病は遺傳によりてのみ廣がるものと信ぜられて居りましたが、近來は癩病傳染說が盛になつて來て、遺傳といふのも、此傳染であるだらうといふ事になりましたが、然し未だ確證はありません。

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉君

（十七）活ける家の寫眞器

寫眞を撮影るには光線に感じ易い藥液の塗つてある所謂種板が必要で、之を少さい孔の開いて居る箱の中に入れ、將に寫さうとする物體の前へ据ゑ付ける。

物體から反射してくる光線は少さい孔から入つて、其後ろの種板にあたつて、物體の明るい部分は強く、其暗い部分は弱く働らき玆に物體その儘の形の撮される者である。若し物體に明暗の差別が無ければ、テンデ繪と云ふものにならぬのである。昔し

英國の女王エリサベツツ陛下

が或日一人の美術家を招いて陛下の御肖像を畫かせ給ふた事があつた。然に名だたる美術家が丹精を凝らして漸くに出來上つた龍顏には、光線の當つた所に相當する白い所と其影に相當する、黒い所とが入り交つて居つたので、陛下は赫ッと怒り給ひ、其影に相當する部を指してコンナ黒い斑點は朕の顏には無いと仰せられたそうであります。此話にして事實とすれば、陛下の如き明君でも繪には遠近法があつて、影の必要であることを御辨へなかつたのでありませう

眼球は活ける家の寫眞器

で、一日に何千枚と無く眼前に現れ來る活社會の森羅萬象を寫眞するものであるが、其都度種板を入れ換へるとか、之を現像するとか云ふ面倒もなく、眼底に寫つた影は直ぐに視神經から腦の方へ送られてそこに終生仕舞ひ込まれるのであります。丁度手が物に觸われば知覺神經が直ぐに夫れを腦へ取り次ぐやうなもので、視ると云ふことも或る距離を隔てゝ間接に物に觸わるものである。團扇を取つて空氣を煽げば其中に波動が起つて風が生ずる、之と共に光線の波動が起つて眼の中へ入り、前號で述べた網膜に觸れ、次で視神經を傳つて腦に達し、そこに物體の繪が出來る。腦に物體の繪が出來て仕舞へば、最早や眼瞼を閉ぢて之を見ないでも、物體の繪はアリ〳〵とわかる。が、年月を經れば此繪の色も褪せてボンヤリとしてくる、之を記憶の減つたのと云ふ然かし一度び眼底から腦に傳つた寫眞像は、記憶の壁に掛けられた繪で、必ず全く磨滅し去るものでない。殊に深く感心した若くはいたく驚いた事柄などは、何時までもあざやかな鮮明圖となつて殘つてゐる。頭に霜を戴き、腰に弓を張るやうになつても、

ツイぞ忘れ難いのは過去の夢で、老ひの繰り言と云つて笑はれ、年寄りの寢言と云つて嘲けられても、尚ほ昔しを語りたいのは畢竟昔しから眼底にうつゝた寫眞のうち、其最も鮮明なもののみが絶へず出沒して記憶に浮び出されるからであります

此の如く一旦寫し出された繪は常に記憶の壁にかゝつて、終生其人に附き纏ひ、時には其人の健康や人格などをも左右するものであるから、我々は努めて望ましくない物や、悲慘しい光景や、不潔な文字などは出來るだけ見ないやうにせなければならぬ。臨終の際に姉の手を取つて「姉サン左樣なら、私は天國へ行つて姉サンのお出でを待つてゐますヨ」と云つた弟の一言が絶へず思ひ出されて、遂に姉も病をえ、「サゾ弟が待ちくたびれて居るだらう」と云ひつつ、此世を逝つたと云ふ物語りさへあります。腦の中に掛つてある寫眞圖が、ドーレで其人に影響を及ぼさずに居りませう、全體『人の智識とは視たり聞いたり觸つたりして得た感覺の集つたものである』とさへ云はれて居ります。サレバ昔しは

胎教

と云つて婦人苟も妊娠すれば、目には邪色を視ず、耳には淫聲を聽かず、只管生るべき子の形容の端正で、才の人に過ぐるのを希望した者であります。然かしながら腐れ果てた今日の世に、聞くまいとしても惡事は千里を走つて來、見やうとしても門から出るやうな善事かない。弱肉强食、優勝劣敗と云ふやうな殘酷非道な光景のみが現れてゐる。かゝる場合に吾々は之を見ない譯には行かぬ、せめては

善事を視る習慣

を養つて惡事も之を善化する樣にしなければならぬ。例令ば貧の笞に打たれて見るから憐れな小供があれば、之に深い同情を寄せて出來得る限り之を助ける樣にする。道を歩いて醉ひ倒れや喧嘩をしてゐる人を見れば、面白いと云ふよりは寧ろ悲しい。人の爲る事營む事は何故かく迄に惡るく汚く、心を害ふことのみが多いであらうか。鳥や獸や日月星辰や、

野や谷や山川草木や、自然の寫眞は實に潔く美しいではないか。空は澄み日は光り輝いても、人は塵埃と黒烟とをあげて强いて之を曇らせてゐる。紅塵萬丈の巷に蠢爾たる人の業のみ見てゐれば、人の眼もいつか曇りて遂に自然の美と云ふ者を忘れて仕舞ふ

眼は視る物によりて變る

視る物によりて變ると云ふよりは、考へる事によりて變ると云ふ方が正しい。而して考へる事柄は重に眼で視る事柄に關係する。自分の好まぬ物事を見れば不愉快な感じが起る、朝夕かやうな物ばかりを見てゐれば、心も遂に不快感に占領されて眼も從つて變つてき、曾て天上の星の樣に潔く澄しく輝いた眼も、猜疑や嫉妬や憤怒や殘忍などを宿し、見るから慄然とするやうになる

井の中の魚の眼は上の方に向いてゐる、之れは上の方の光線を絕へず仰いで居るからで、人も善事ばかりを眺めてゐれば視線は絕へず其方に計り向く。假りに一年乃至數年の間暗室の中に閉ぢこもつて、一切日の目に逢はないとすれば、視神經は終に其働きを失つて仕舞ひ、其後明るい處へ出ても明暗を辨ずることの出來ぬやうな盲目となる。世の多くの男女の中には

色盲

の患者が少くない、色盲とは出齒龜や自然主義信者の謂ではない、全く或色を見分ける力の無いものを云ふので、例令ば七色のうち黃色は見へるが紅色は分からぬとか、紅色は分かるが紫が見えぬとか云ふもので、かやうな人は啻に自然の色の中に愉快の一部を減がれると云ふ計りで無く、或る職業によつては全く從事することが出來ぬ、殊に色で合圖する職業例令ば船の信號手とか、汽車及び燈臺等で危險を知らせる人及び夫れを見分ける人などには、色盲の者があつては大變である。曾て英國の或仕立師が軍服の注文を受け、期日になつて調製がつて早速に上納したところが、色樣々の服裝であつたので遂につき返されて仕舞つたと云ふ話しがある。これは此仕

立師が色盲であつて、其服裝の色を見分けることの出來なかつた爲めであります。煙草の濫用は色盲の原因になることがあるさうですから、大に注意すべきであります

眼の養生

としては第一に之を清潔にしなければならぬ、涙腺から流れ出る涙ばかりでは未だ眼球を清潔にするに足りぬことがある、故に清水で屢〻之を洗ふ、その都度餘りに摩擦るのは惡い

第二の全身の健康をはかる

全身が不健康であれば眼の輝きは失せ、視力は著しく害される。食物が不良で、榮養に乏しければ眼の榮養も足らなくなる。

夜盲症

と云つて日中には異常は無いが、夕方から夜にかけて宛然失明者の樣に、咫尺をも辨せぬ樣になる病氣がある。此病氣は種々の原因から生ずるが、榮養の不足も亦た確かに一原因である。故に產前產後の婦人、番頭小僧、牢獄、兵舍、育兒院、航海者等に多い、西洋では宗教上の儀式から斷食と云ふことをするが、此斷食の時にも夜盲症が增加すると云ふことである。故に眼病以外でも

病氣の時に眼を使ふのは惡い

全く快癒して力の附いた後で無ければ、讀書に耽けるのもよくない

讀書の時

は姿勢を正しくして机に向ひ、頭を直立させる、書物とは適度に眼を遠ざける、光線は左の肩から文字の上に落るか或は左方から橫に射し込む樣にする、前方から直射するのも直接に顏に當るのもよくない、誰そ彼れの光線は讀書には適せぬ、螢の光窓の雪も三五の月も讀書には何れも良くない

太陽の光線からランプの光線に移る時、ランプから電燈若くは瓦斯燈と代る時には、暫時休息して眼を遠く窓外に放つか、或は目閉して書物以外の時間を費す。込み入つた仕事や眼を勞する仕事の時は、屢

々仕事から眼を外らして天井を眺めたり、室内を見渡したり、或は綠陰滴る庭園の草木などを眺めたりする

寢ながら讀むのは自然に背く

眼筋を勞すること夥しい。世の文明に進むにつれ人は益々惰弱となり、ラクをしながら利益を得やうとする、此弱點につけ込んで奸商輩が寢ながら讀書する机などを發明する、人道のため蹴破り捨つべきものである

汽車や人車の中で讀むのも宜しくない

汽車や人力車と共に人體が動搖すれば、眼と書物上の距離は各瞬間に違ひ、ページも左右上下に搖れて一定しない、眼筋が之を調節して絶へず一定の焼點距離を保つには尋常大抵の勞力でない。世の中の複雜につれ歩きながらの讀書家、乘りながらの讀書家の少からぬ此頃、これは大に注意すべき事柄である

醫家の美顏法（續き）

H、G 君

第二　角膜翳（ほし）

眼の球にほしの入つた人は往來でも隨分見かける處であります。ほしは小さなものでは有りますけれど美しい眞黑な處に白く點を爲して居るのだから隨分目立つもので有ります、此位な點が額や頰の皮膚に有つたとて、鼻の尖に有つたとて、別段人は何とも思はず、自分にも氣にする事は有りませぬけれど、眼にある時には實に著しく眼立つ。額の傷は前髪ででも蔽ふ事が出來やう、頰のほくろは白粉で消す事も容易で有りますが、眼の球は如何ともする事が出來ませぬ。口邊に醜い處のある人は、大事な時には已を得ずハンカチーフで蔽ふても、一時の凌ぎはつくので有りますが、眼を蔽ふては見る事が出來ぬ、唯一の手段として眼鏡を用ゐる、併し何レンズは遠慮なくほしを通すので有ります。之れではほしのあ

る人が心配するのも無理は有りません。はしのある患者が病院に來た時に、如何なる苦痛で來たかと問ふと、痛いとか見え難いとか答へるが、其人に痛を去つてやつた位では一向有難くは思はない、視力は恢復する事は出來ぬがほしだけは取つてやらうと云はゞ顔色を變へて喜ぶ、之れは僞らざる人情で有りませう

角膜翳は如何して出來るか

普通世間でほしと云つて居るものゝ中には、種々のものを含んで居りますが、其中で最も多いのは角膜翳で有りますから、玆には只角膜翳のお話をいたします、御承知の通り眼の球は種々の膜や硝子體や水晶體や種々のものから成つて居りますが、前から見て所謂黒目と云ふ部分で、最も外方に有るのが角膜と云ふので有ります。此角膜と云ふのは無色透明のもので有りまして、此處が黒い色をして居るのは、之れは角膜の色では無く、此下に有る光彩膜と云ふ膜の色が透き通つて見えるので有ります。此眞中に一層黒い圓い處がある、即ち瞳孔で、此處は如何成つて居るかと云ふと、光彩膜は環の形に成つて居るので中央に圓く光彩の無い處が有る、其奥は硝子體が有つて、之れがまた透明、其奥には水晶體が有つて、之れが亦た透明で有ります、外から見ると瞳孔の部は殊更に黒く見えて居るが、實は此部だけが奥の奥まで透明なので、外界の光は此處から入つて奥に行き、眼の底に行つて其處に像をうつさうと云ふ仕掛に成つて居るので有ります。だから檢眼鏡と云ふ鏡で此瞳孔の部から奥を覗き込めば、眼の底がよく見えて、其處に來て居る神經や血管の有様まで、手に取る様なので有ります。偖てお話は元にもどつて角膜は此様に無色透明の膜で有りますから、之れが何かの都合で溷濁が出來たら、外からは直に白く成つて見える、ほしと云ふのはつまり角膜に溷濁が出來たので有ります。偖て此溷濁が如何して出來るかと云ふと、角膜にも矢張他の組織と同じ様に、種々の原因で炎症が起る、此炎症が輕度のもので何事

も無く治つて事舞ふ事もあるが、浸潤がひどかつたり、潰瘍が起つたり何かして、十分に治らない時には、痕に溷濁が殘るので有ります。だから其炎性の位置と治り方とによつて、角膜の表層に有る事もあり、實質の中に有る事もあり、中央に有たり、ふちの方に有つたり種々樣々で有ります、又同じく溷濁と云つても、輕度で素人目には一寸見えない樣なのも有り、乳の樣に白く見えるのもありますから、之を程度によつて三種に區別して、先づ極めて菲薄で有つて、一寸見てはわからぬ樣に透明に近いものを薄翳と名け、稍々度が進んで半透明位に成つたものを斑翳と云ひ、次に全く不透明で眞白に厚く成つて居るものを白斑と云ふので有ります。此樣にして出來た角膜翳はまた、久しく其儘で棄て置た時には、往々之れが石灰變性、脂肪變性と云ふ樣な變化を來して、白い濁りは益々其度を強くするので有ます。角膜翳の存在して居る爲めに、眼の作用や視力に對する影響は種々有りまして、其翳の形により、時には甚しく視力を害する事が有つたり、或る一部だけ光を通さぬ處が出來たり、時には又物が二つに見える樣な事も起り、近視や斜視を起す樣な事も有りますが、此樣な面倒な事を一々申しても別に必要の無い事で、要は只はしが取れるかどうかと云ふ事に有るのですから、早速療法を述べませう

角膜翳の療法

としては種々の方法が有りますが、先づ簡單なものから申せば

新しく出來た輕い角膜翳は藥劑療法でゞも治らぬ事はありません、即ち黄降汞を點入するので有ります之れは忍耐して用ふれば古くなつた翳にでも時には功を奏して、漸々薄く成つて來る事も有ります

又角膜翳が丁度角膜の中央、瞳孔の部に有つて、其爲に邪魔に成つて視力が害せられて居る樣な時に、外見は兎も角視力だけ恢復し度いと云ふ考への時には、假瞳孔術と云ふ方法が有ります、之れは名の如く假の瞳孔を作るので有りますが、それは如何云ふ

譯かと申ますと、前申した通り瞳孔と云ふのは、虹彩膜の無い處で有つて、其處を光が通るので有りますから、其光の通る道が角膜翳で妨げられて困るなら、他に光の通る處を作ればよい譯で有る、其目的の爲には、虹彩膜を切り取つて、瞳孔を大きくすればよいので有ります、卽ち假瞳孔術とはつまり虹彩切除術に外ならぬのであります

次に又角膜移植術と云ふ方法が有ります。此方法は先づ角膜翳の出來て居るのを取り去つて仕舞つて、其痕の缺損の出來た處には、他處から角膜を持つて來て植へ附け樣と云ふのです。持つて來ると云ひましても、皮膚を取つて來る樣に易くはない、自分の角膜を取る事も出來ず、他人のを貰う譯にもいきませぬから、已を得ず動物を犧牲とし、家兎の角膜を取り來るので有ります。之を行ふに近來の最も進步した方法では、一種の圓い鋸、一言で言へば筆の軸の先の刃の有る樣なものを用ゐて、之れを白斑に當がつて、圓くきり取る、其時に角膜の全層を取つて仕舞つては、角膜の下にある水が侵入して來るからもう無效です、之れには傷をつけぬ樣に巧に切除し來つて、次に健康な家兎の眼から、夫れと同じだけの大さの角膜を取て來て移植するので有ります。之れは中々困難なる方法で有りまして、餘程うまくやらないと、又元の通りに溷濁して來つて、苦勞した手術が水泡に歸する事と成ります

最後に今一つ、取て置きの妙法が有ります。之れは古く成つた厚い大きな白斑で、迚も治る見込の無いものに、如何にかして白い色を無くしやうと云ふので、視力の方は兎に角として、白い色を無くすると云ふのだから、治すと云ふ考へでは無く、只色を消すと云ふ考へから起つた方法で有ります。夫れは何かと云ふに此白く成つた處に入墨をしやうと云ふので有ります。餘り突飛な方法の樣では有りますが、之れは隨分廣く行なはれて居ます。前にも申した樣に、若い婦人の方等では、少し位視力が減じたり、痛みが有る位の事は何でも無いが、只白斑の生ずる

のが第一の苦痛と成る事が多いので有りますから、此人達の爲には、實に天來の妙法とも申さねば成りません。入墨をして都合よく色が消えるであらうか、御心配は有りません、此人の眼は如何かと強て見出さうとする時ならば兎も角、普通人と向ひ合つて話して居る位では、決してほしが有るとは氣の附く人は有りません。さらば此入墨には何を用ゐるかと云ふに、墨の良いのを撰んで、之を水で磨つてはいけない、五千倍の昇汞水で磨つた墨汁を用ゐるので有ります。偖て豫め角膜の上をよく拭ひ去つて濕氣を無い樣にし、其處に此墨汁を白斑の上によく塗り附けて、其上から針を以て刺して、墨を染み込ませるので有ります。之れには特に劄刺針と云ふのが出來て居ますが、普通の針を用ゐても差支は有りません。此方法にて視力をも增進せしむる事が出來ると云はれて居ますが、其效は疑はしくとも、美顏法の上からは決して棄つべからざる妙法と云はねば成りません

如何なる食物が最も良きか（續き）

K、K君

次に本論の第一歩として

（一）飢餓時に於ける代謝作用

を申さねばならぬ、動物は一定時間は、食物を取らずして生活する事が出來る、この際は、前にも申した通り、體成分自己が分解して、或は熱を生じ、或は運動を營むのであります、けれども、この分解作用は、持續的に行はれるからして、終には餓死せねばならぬのである、食物を取らずして餓死するに至るまでの時間は、動物の種類に因ても違ふし、榮養の狀態、身體の大小等に因ても一樣ではない、脂肪質の動物は一般に能く堪へるものであります、時には體重が$\frac{1}{2}$或は$\frac{1}{3}$に減じて漸く死するのがある、犬では通常體重$\frac{2}{5}$を減ずれば死すとの事である、若い動物は、生活が活潑であるから餓死は速

い、人間でも、初生兒は三—五日の中に體重$\frac{1}{4}$を減じて死んで仕舞ふ、人間について、飢餓試驗をするといふ事は、人道の上から許す事は出來ないのでありますが、自分の好きで、チョイチョイやつた人の實驗もあり、又斷食などをする人も折々あるので多少の事は分つて居るが、成人ならば、三週間は水だけて生命を保ちうる事は確實であります、これも死ぬまで持續する事が出來ないので、其點を名確に云ふ事は出來ないけれども、或精神病患者が、すべての食物が皆有毒であるといふ考を起して、全然食を斷ち、水のみを飲用して四十一日目に至つて死亡した例があります、又極めて稀な例であるがイタリーのメラッチーといふ人は五十日で餓死したといふ事が記載してある、犬は平均四—八週保つが、最も珍しい例では十四週間卽ち九十二日食はずに生きてゐた犬がある、蛙や蛇が半年以上食せずに生きてゐる事は、世人の熟知する處であります

飢餓のために體重の減少するのは、始めの中に最も著しいのであります、さうして身體の小なる動物は比較的に體重の損失が大であります、これは生活が一般に活潑なのと體の表面が比較的大なるとに歸するのである

又飢餓の時に、蛋白質分解の起るには、肉食獸と、植物食獸とで多少の差異があります、これは、始め蛋白質の攝取された時の狀態が違ふのと、體內に於ける構成に相違があるためだらうと思はれる、卽ち肉食獸では、始めの間、蛋白の分解は頗る迅速であるけれども、植物食の獸類では、始めから一樣で且遲いのであります

飢餓が漸く續くと、蛋白質の分解は、最小限にまで減じて仕舞ふ、さうしてその分解の量は殆どコンスタントとなる、之を「飢餓最小限」と呼ぶのであります、漸ゝ死ぬ少し前になると、再び急に蛋白質分解の量が增加いたします、この關係は、極めて大切な、又興味の多い事であつて、吾々が何時も自然の智慧と力とに感心せねばならぬ點であります、卽ち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

右様な關係を生じ來るのは、全く自然の經濟的設備によるものであつて、日常生活に必要な活力を作るに當り、始めは不安定な蛋白が多量に分解されるが、それが盡きて後は、必要成分たる蛋白は、出來るだけ消費せぬやうにし、比較的不必要なる脂肪その他のもので、可成經濟的に活力を製造し、それらすべての貯藏が、盡き果てた處で彌々蛋白質に手をつけるといふ譯になるので、死前に再び蛋白の分解が高まるのである、例へて見れば、或人に急に收入がなくなると、始めは有金をパッパッと使ふ、それが終へると、方々へ貯蓄して置いた小口の預金を引き出して使ふ、これらすべてが盡きた處で終に固定の財產に手がつくといふやうな譯で、もう斯うなつては身上は保たない、死前に蛋白分解の增加するのと同様なものである

其外飢餓の時は、瓦斯の交換も緩慢になり、體溫は一定時間は平常の如くであるけれども、死ぬ少し前になると急に下つて攝氏三三―三〇度になる事がある、次に

(二)不完全なる食物に於ける代謝作用

を述べねばならぬ、不完全なる食物といふのは、不充分なる食物とは意味が違ふ、後者は食物を充分なる分量だけ取らぬ意味である、不完全といふのは、「質」の方から見て云ふのであります、即ち或食物の中に、重要なる食素の一或は二を缺いたものであります

水分は、身體の生活機能上には、實に重要な役目を有するものであつて、過度に水分の給與を妨げれば種々なる障害の起るのは明であります

食物から、全然蛋白質を去つたとすれば、身體は、蛋白缺乏のために死亡するのは疑なき事である、しかも不思議な事には、かゝる食物の製造が不可能な事であります、之に反し蛋白質の極めて少量な食物につきて試驗すると、この時は、蛋白質分解は著しく減少して、飢餓時に於けるよりも更に少量の分解になる、斯ういふ關係であるから、體の最主要成分

たる蛋白質は割合によく保護せられて、生命も案外長く保たれるのであります、併し、犬でやつた實驗によると、終には膽汁の分泌を大に害して、消化障害のために死んで仕舞ふとの事である

脂肪並に含水炭素を食物から除去する事は困難であります、肉から全くこれを去つて、粉末にする事が出來るけれども、かゝるものは到底食慾を起す事が出來ないから、隨て試驗は不成功に終るのであります、犬は脂肪の少い肉で長く生活しうるけれども、人は肉のみで生きてる事は出來ない卽ち肉一方の食物では、生活が要求するほどの活力(エ子ルギー)を製造する事が出來ないのであります

(三)肉食時に於ける代謝作用

肉食獸では、肉のみを以て飼養する事が出來る、犬に肉ばかり食はせると、始めはドシドシ吸收されて、體内に多量の蛋白質が貯蓄されるけれども、遂には、蛋白質の分解が增加して、其時吸收した丈けの蛋白は盡く分解して、いくら與へても最早や蓄積しなくなつて仕舞ふ、此狀態を「窒素平衡の狀態」と云ふのであります、卽ち二の狀態は、犬が斯くの如き飼養の方法によつて、體内に蓄積しうる蛋白の最大限であつて、消化器は、これ以上の蛋白が體内にたまる事を許さぬだけの全權を有して居るのであります

此外膠質、アルブモーゼン、ペプトン、アスパラギン等、何れも榮養の效があつて、蛋白質を保護するものである

(四)蛋白、脂肪食に於ける代謝作用

食物の脂肪は、蛋白質を保護するものであります、體内の脂肪も亦同樣である、であるから、多脂性の動物は、少量の蛋白でも、容易に「窒素平均狀態」に達する事が出來ます

肉と脂肪とを動物に與へて飼養するには、兩物質の比例は甚だ大切なもので、蛋白質が多量にすぎると脂肪の方には變化はなくつて、却つて蛋白の分解が增すのであります、それであるから、體内に蛋白を

增さんとする時に肉食一方を奬勵するのは目的に適つたものといふ事は出來ない、却つて蛋白質卽ち肉食の方を一定にして、脂肪を增した方が宜い、それよりも、更に確實で稱用せらるゝものは、含水炭素であつて、これは脂肪よりも、尙よく蛋白の分解を保護するものである

動物に一定量の肉食を與へ、之に加へて含水炭素を與へれば、窒素平衡狀態に達する事が出來る

右の樣に述べて參りまして、殘る處は結論の一點であります、如何なる食物がよいかといふ事は、つまり吾々が最もよく

　肥滿らんとするには何を食すべきか

といふ事になる

吾々が出來うる限り經濟的に、肉と脂肪組織とを肥大せしめんと思ふならば、多量の肉食をする事は目的に反するのである、それよりも脂肪と含水炭素とを多量に食した方が宜いのであります、肉食一方をやると、速かに窒素平衡狀態に達してしかも其蓄積した全量は割合に少い、肉の量を少くして、脂肪、含水炭素を多量にする方でやれば、平衡狀態に達する事は遲いけれども、絕對的に多量の蛋白と脂肪とが蓄積する、處で米は肉に比して價額が安いから頗る經濟的に行くといふ譯になる

要するに、大に太らん事を欲して肉のみを食せんとするのは一杯の誤想である、宜しく米の量を增して、よく之を消化するやうに勉むべきである、普通日本人の食物で、健康者には何の不足もある譯はない、二日間も肉や魚を食はないと、直ぐに骨離れがするやうに感ずるのは、間違つた考へが先入主となつてゐるからである、吾人は吾人の常食で滿足して且つ安心して居て宜しいのであります

家庭衛生

個人の衛生（五拾ヶ條）

在佐渡島　醫學士　竹中成憲　撰

▲朝の衛生

○齒の裏を掃除すべし、表のみに心を奪はるゝなかれ

○齒は瀬戸物と同一にして、熱きもの及び冷きものに急にふるゝときは「ヒビ」いるものなり。或に冷きものと熱きものと同時に飲食せざるやう注意すべし、又砂糖は蟲齒の原因となる。齒磨は粉の細きものを選ぶべし

金屬にて齒をほぢくるべからず

○手拭及「ハンカチ」は白木綿を良とす、家族中にても各自名を記し置く事よし。下等なる生活に在ては手拭と雜巾の區別なきものあり、「トラホーム」豫防の爲め最も大切なりとす

○金だらひは洗面以外に之を使用すべからず、家族中急に嘔吐するものあるとき金盥を以て之を受くるものあり、甚だ危險なり

▲衣服の衛生

○衣服は可成薄着を良とす。重き衣服は運動を妨ぐ、就中兒童に害あり

○帶は決してきつくしめるべからず。兒童は之が爲に胸廓の發育を妨ぐ

○襟卷は無用の長物なり

▲室内の衛生

○疵に唾液を附くるは惡し、己の唾液に毒なくとも不潔なるものに觸れたる手を舐むることあり

○談話　肺患者と談話するときは三尺を隔てゝ語るべし。密談を要する時は自ら己れの「ハンカチ」を右手に用意し、機を見て之を巧に使用し、患者咳嗽時の豫防とし、語るに當ては彼の呼吸に注目し、彼空

氣を吸ふとき、我も吸ひ、彼吐くとき(呼氣)我も吐くべし

○煙管　に就ては左の注意を要す

他人のものを使用すべからず

自己のものも貸さゞるやうすべし

吸口は金屬ならざるものを用ゆべし、金屬は齒を害す

吸口に彫刻は惡し、細菌附著の恐あり

吸口は直接に疊の上に置くべからず。煙草入か何にかにもたれしめ疊との間に一分たりとも距離を作るべし

○竹筒　痰が切ぬとて煙草盆の竹をなむる者あり、危險なり

○嚏(くさめ)及咳拂　は己の「ハンカチ」の裡に致すべし、他人、我に向て之を爲すときは我「ハンカチ」を以て之を防ぐべし

○「ハンカチ」　鼻紙等を「ポッケット」又は袂に入るるに就ては豫め左右何れの方が自分の習慣として入れ易きかを定め置くべし。然らざれば菓子又は煙草等口にするものと、汚物の混る恐あり、我が小笠原流既に此規定を設く

○筆鉛筆　を舐るは惡し、就中他人のものを借りたるときは注意すべし

○郵便切手　は之れを貼付するの際、なめざるやう注意し、硯函附屬の水を使用すべし

○封筒　も亦之を封ずる際なめざるを良とす

▲役所の衛生

○辨當箱　は役所、學校等の小使室の土間又は土足の板の間にあり、此箱を直に「テーブル」の上に置き、食事するの風あり、危險なり

箱は脱して内部のみを机の上に昇すべし

○帳簿　をまくるに指を舐めてするは惡し、古き帳簿の左下角は先の使用者の唾液の爲め色黑くなりたるを思ふべし

○掃除　板の間の掃除(就中役所、學校、汽車、電車等の中)には鋸屑の濕りたるものを先づ撒き、而

して後、掃くときは不潔物鋸屑に著きてよし。此屑は燒くを良とす

▲入浴の衛生

○爪。は必らず短かく剪むべし、黑き爪は親より貰ひ受けたる爪にあらず、爪の色を見て人品の上下をトすることを得。支那の上流者は爪を長くす、是勞働、汚猥の不必要を示して、自己の身分の高きを發表するなり

○櫛。他人のものを使用すべからず、一家の中にても亦然り

○錢湯。の板の間には嚴令あるに拘はらず、痰の散在すること多し、此板の間に平然とあぐらかくは惡し、宜しく女子の如く一脚を膝下に置くべし、痔瘻は結核にして痰は結核の源

○運動法。入浴中、手拭にて自身で自身の背部を洗ふことよし、棒の體操なりと思ふべし、又他人を洗ふは却て己の運動法なり

▲食事の衛生

○疊。の上に落ちたる食物は之を食ふべからず。小兒には落さぬやう教ゆべし、決して「モッタイナイ」との一言の下に、拾はしむべからず。疊の上は往來歩行の後は勿論、便所の歸にも足又は足袋を拭ふもののなきを思はゞ危險思ひやらるゝなり。將門が飯を拾ひたりとて秀鄕之を笑ひたりといふ、將門は衛生を知らざりしなり

○盃洗。は數多を良とす、宜なる哉、小笠原流は各自盃洗を有するを式とす

○小楊枝。を襟に刺すは惡し、「齒クソ」を衣服に藏すなり。殊に多くは其行先不明又は摘出不能となり、洗濯屋に到て現はるゝ事あり

▲旅行の衛生

○神社佛閣の奉納手拭。は頗る危險なり、萬民汚手を拭ひ、之れを洗ひ出すものなし。多數は汚れ、色黑し、これにて手を拭ひ、口を磨り、同時に眼をふくものあり、「トラホーム」其他の蔓延に與りて力あり。宜しく不淨のものは燒しむべし、殊に同所の水

も不淨なり、口にしたる杓を其儘、水中に戻すのみならず、水中には多數の錢の沈澱するを見る、此錢は古きは數百年、消毒を受けず、數千人の袖をくゞり、其儘此水中に投ぜられたるものなり

○上靴と手拭　西洋人は奇々妙々なり、彼の如く每日「シャツ」を取換へ、朝夕手顏を洗ふに係らず、上靴を頗る淸潔と考へ居るものゝ如し、其證は彼の旅行者を見よ、彼は「カバン」の中に手拭書物等と共に上靴を包まず、其儘雜居せしむること多し、洋行歸の我紳士宜しく此の風を避くべし

足袋たりとも別に紙に包みて後、「カバン」に入るべし

○「カバン」は外出旅行の時、車の「ケコミ」(土足にて昇る處、足の在る所)又は馬車、汽車、電車の板の間に直接に置かるゝ者にして其底は泥、其他不潔物を受くるものなるを以て歸宅後、床の間に置くべからず。此事は旅行者は特に注意すべし

役所に出ては「テーブル」の上に置くべからず

○紙幣の勘定も同一、傳染病者の先に所持せしものあり

○宿屋の夜具襟に白布ありとも安心すべからず、前夜のものを取換へざる事多く、而して前夜肺患者、癩病者、黴毒者等之を口に當てたるやも計りがたし、自己の「シャツ」をあてゝ眠るべし

▲夜の衞生

○「ランプ臺」の底　「ランプ」は「ランプ」室又は戸棚又は不潔なる板の間に終日置かる然るに火を點じて直に之を机の上、甚しきは膳の上に運び來る、其危險思はざるべからず、必らず毛絲其他にて蒲團を作り且淸拭すべし

○貸本　小說類最も危險。多くは病者の讀むものなり

○按摩は自ら運動し難き病者に之を行はゞ運動となるの效あるは勿論なれども、他人を按摩するは却て己の運動となるなり

○夜具の襟に「びろうど」を用ゆるは宜しからず、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

塵埃の附著し易きものなればなり

○戸の撮(つまみ) を千倍昇汞水にて時々拭ふべし、便所の板の間よりも病毒附著し易し

○便所用紙 は鼻紙同様清潔にして軟きものを用ふべし、肛門を傷つけ、痔瘻の原因となる。新聞、反古、障子紙、木葉(くづ、まめ、かき、なら)、藁、繩、古状袋、藻等用ゆべからず、脱脂綿、「ガーゼ」は良しきも價高し。中以下の西洋人は日本紙を知らず、新聞紙を用ゆ。日本には日本紙のあるあり

▲家屋の衛生

○西洋館 は土藏の如し、塵埃の出口多くは入口の外になし。此の裡に住する者は宜しく上等の靴フキを備へ、「テーブル」、寢臺を用ゆべし、然らずして日本風的生活をなすは頗る危險なり

○窓 は床板まで「通シ」として下部に「テスリ」を設くればあぶなき事なし、以て塵埃を掃出すに便を與ふべし

○欄間 室と室との間の鴨居の上即ち欄間を透して彫刻又は單に竹の一二本を横たへるものあり、コハ隣室掃除の際、塵埃自己の室に到るを以て良しからず、旅店、割烹店等注意すべし。壁を以て塞ぎ、空氣を通ずる欄間は椽側の方に設くべし

○壁土 の中には危險なる病的細菌發見せられたり、落成を急ぐときは壁も板を良とす寒國にては板を二枚とし其間に鋸屑を詰むれば暖なり

○障子の張換 吾人は障子の棧を内にするを例とす、然るに此の棧には塵埃つき易く、且何人(肺病患者)も唾、咳嗽等を爲すときは特に障子の方に向く癖あり、故に棧の上には危險なる細菌ある筈、障子は棧を外にするを良とす。神樣、佛樣は怜悧なり、皆棧を外にして内に安置してござる、朝鮮にては外にするの風あり

▲臺所の衛生

○布巾及び雑巾 は其區別を明にし、「中フキン」なるものを作り、机の上、柱などを拭ふの用に供すべし、

布巾は常に白色たるべし、雑巾は褐色までを許す
○杓の柄　には鍔をはめ、手にて握る柄の部分より垂るゝ汚水の桶又は瓶の中へ流れ戻らざるやうにする事良し
○飲料水　は濾漉又は可成煮沸すべし。夏期就中然り
○陶器(瀬戸物)　は白色無地を良とす、九谷燒の如きは花瓶(眼)には良きも食器(口)には汚物、細菌の附著し易き嫌あり
○漆器(就中蒔繪)　は食器としては消毒の爲め熱湯を嫌ふの恐あるが故に良しからず。且蒔繪には細菌つき易し
汁も茶碗を良とす
○流シに痰をするは惡し　家族中肺患者を生じたるとき、此者のみに之を禁ずることは情に於て爲しがたし、宜しく健者にも平生に於て之を禁じ置くべし
○「コップ」、湯呑　の深くして其底に指の屆かざるものは掃除すること能はざるが故に惡し
○井戸　は夜間蓋をなすべし、又一年數回かゆることよし。每回櫛、かんざし、古手拭、鼠の死體などのあがるを見ても其不潔なるを知るべし
○井戸と厠　は其距離をでき得るだけ遠く爲すべし病毒の厠より井戸へ注入することは水を檢査して證明せられたり

（了）

育兒

小兒哺育に就ての注意

醫學士　河野衛君述

吾々が、吾々の身體を健康に保ち、病氣に罹らないやうにするには、平素飲食物に注意を拂はなくてはならぬ事は、知れ切つた事で、誰でも承知して居る事柄であります、此れは、大人に取つても、小兒に

取つても極めて大切な事であります、殊に小兒の食餌といふ事は、甚だ關係する所が深うありますから一層注意を拂はなくてはなりませぬ、それで私は今日玆に小兒の哺育に就いて少し許り御話しを致して見たいと思ふのであります、但し私の謂ふのは、食餌を與へる上の注意―方法に重きを措いて御話し申すのであります。

言ふは易く、行ふは難しで、何事でも理屈といふものは存外早く飮み込む事の出來るものでありますけれ共、實際に此理屈を實行するといふ段になると、種々な困難に出逢ふものでありまして、中々むづかしうあります、實行といふ事になると忍耐が要る、意志の力が必要である、冷靜な稠り強い精神が要々である、それで實行は兎角エライ人でも中々困難なのでありましよう、小兒と大人とは、何事も違つて居ります、即ち小兒は、大人を小さくしたやうな者では決してありませぬ、單に小兒は小さい、大人は大きいといふやうな單純なる大きさの相違のみではありませぬ、此の外に大切な事は、身體の働きの具合身體の構造抔生理解剖上の點に於て小兒と大人とは相違の點があります、短く言ふて見ると、小兒と大人とは、單に大さが違ふばかりでは無くして、性質の上に於て差異のあるものであります、それ故に、小兒に食物や藥を與へる時には、大人に與へる量を減らして與へるといふやうな事をやるのでは無くして、其與へる品物の性質を吟味して、與へて行かなくてはならぬのであります、それは、單に身體の大小ばかりの差では無くつて、働きの上に於て大なる相違があるからであります。

小供が生れてから、哺乳時代の間は、母其食餌とすべきものは、母の乳であります、其外には、此母乳に勝る品は決してありませぬ、母の乳の出ない時分には、媼母の乳を用ふるのでありまして、此媼母の乳を飮ませる事の出來ぬ場合には止むを得ず牛乳や其他の品を與へて行くのであります。

そこで先づ赤兒が生れると、母の乳を與へるのであ

りますが、始め一二日の間母の乳の分泌せる事がありますから、此間に、牛乳を與へる人があります、其理由を聞くと、母の乳が出ぬ、吸ひ付いて吸ふけれ共、乳が出ぬ、それで出る迄の間牛乳で養ふて行くのであると言ふて居る者があります、然し是れは間違つた考へ方であります、生れたての赤兒に、牛乳を與へるといふ事は、甚だ危險を伴ふ事でありまして、宜しくない事です、吸ひ付いて吸ふ間に自然と乳は出て來るものでありますから、一時乳が出ぬからと謂つて、直に牛乳抔を與へてはなりませぬ、小供の胃腸の力といふものは、極めて弱いものでありまして、母乳の外には、ヨク消化せられて吸收せられたるものはありませぬ、それで胃腸に適合しない所の牛乳抔を與へると、胃腸を害する事がありますから、餘程危險の伴ふものであるといふ事を覺悟して居なくてはなりませぬ、それなら、乳の出る迄は如何にしたら宜しいか、何を與へて置いたら宜しいかと申すに、此間は、單に砂糖水位のものを注意して少量宛與へて置けば宜しい、或は、何にも與へないでも差支はありませぬ、辛抱して、度々乳房に吸ひ付かす事を勉めるのが一番大切であります、それから、今でもマクリを飲ますものがありますが、何にもソンナものを與へる必要はありませぬ、マクリを永々飲まして、それが爲めに、嘔吐を起したものを私は、見た事があります、此時マクリを止めたらば、嘔吐は直に去つて了ひました、生れ立ての赤兒に飲まして、差支の無いものは、母乳の外に無いといふ考へを持つ事が甚だ大切な事であります。

母乳を與へるに就て、大切な事は、時間を守る事であります、時間を定めて與へるといふ習慣を付けるのは、極めて肝要な事であります、併し、小供が泣くからといふので、之を守らぬ者が十中の八九皆そうであります、泣くといふのは始めの間の事で慣れて了へば、そうイツ迄も泣く筈のものではありませぬ、そこで、時間が守られぬと自然不規則に多量の乳を飲むから、胃腸に障碍を起して來て、或は、乳

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を吐き或は下痢を發する事もあります、此の時哺乳の回數と時間とを規定して、之を嚴守する時は、藥を飲まなくとも、自然に治る事もあります、時間を守るといふ事は、夫れ位大切なものであります、それから乳を飲み過ぎたが爲めに、却て、便祕する事があります、是迄は日日二三回の便通のあつたものが、便祕して、灌腸でもしなければ、便通が無いというやうな事もあります、便祕すると、小供の身體に取つては、甚だ不快で、又此れが爲めに、種々な症狀を發する事があります、此時乳の飲ませ方を少し減らすと、自然に便通があるやうになる事もあります、便祕の原因は、他に色々ありますけれ共、乳を飲み過ぎたといふ事も、慥に一つの原因となるものであります。

世の中には牛乳を以て、一種の滋養物の如くに考へて居る人があります、母の乳は充分に出て居るにも拘らず、牛乳を飲まして居る人があります、又子供がドーモ太らぬからといふので、牛乳を加へて與へる人もあります、併し是れは大變に間違つて居る、母乳が充分に出て居れば、他の食品を與へる必要は決してありませぬ、子供の身體には、牛乳が適せぬ母乳に限るといふ事は、學問上の研究から、明かな所であります、元來牛乳は、牛の子を養ふ爲めに出來て居るもので、人乳は人の子を養ふ目的に出來て居るものであります、牛の乳が人間の子に適しないのは、是れ丈けの事柄でも分る、それに、牛乳を以て、良き品と考へて、立派な母乳があるにも拘らず牛乳を飲ませるといふ事は、甚だ間違つた話しであります。

我國は、昔から、立派な母乳國であつて、誠に結構な事であります、然るに、今日は、母親が社交上の關係で、屢々外出するから、留守中丈け牛乳を飲ます習慣を付けて置けば、大層便利であるといふので幼い兒に強いて牛乳を飲まして居る向も尠くないやうであります、併し是れも間違つて居る考へです、社交の爲めに大事な小供に乳を飲ます事の出來ぬや

うな人は誠に不幸と謂はなければなりませぬ、それから、母氏の乳は澤山出るのに、牛乳を交へて居る人があります、其理由を聞くと、若し萬一親が病氣に罹つた時に、乳を飲ますに、困るから、其時の用意にといふのであります、一寸見ると、用意周到なやり方のやうでありますけれ共、是れも間違つて居ります、牛乳で榮養して行くといふ事が、母乳と同じ價値のあるものならば、それで宜しいかも知れませぬけれ共度々申す如くに、牛乳榮養といふ事は、甚だむづかしい事柄で、やゝもすると、胃腸の病を起し易いものであり、且つ小供の生長の具合も宜しくありませぬ、それに今、萬一母が病氣になつた時の用意だと謂つて、危險を伴ふ牛乳榮養を行ふといふのは、甚だ恐るべき事であります、用意の爲めに、小供が病氣に罹るやうな事では、正しい考へ方とは申されませぬ

それから、人工榮養の場合、—母に乳が無く、媼母の乳を飲ます事の出來ない場合には、止むを得ず牛乳を用ひて居ります、此牛乳を以て、人工榮養を行ふ時分には、又格段の注意を拂はなくてはなりませぬ、牛乳は哺乳兒の胃腸に適し難い品でありますから、乳の薄め方分量、哺乳の時間、回數等悉く醫師の指圖を受けて、之を嚴守しなければなりませぬ、母乳の如き最良の小兒榮養品でも、飲ませ過ぎると病氣を起します、況んや牛乳の如き品では、此恐れが一層深うあります

英國の倫敦では、小兒の死亡數が甚だ多いといふ事であります、それは、母乳で小兒を養ふて行ふ者が尠くて、人工榮養を行ふものが甚だ多い所から、病氣に罹るものも多く、死亡數の多い譯であります、然るに我國では、母乳を以て、養育して行く人が多い所から、子供が皆健全であるから、小兒の死亡數は、西洋に比べると、遙に尠いのであります、母乳榮養は、此れ位貴いものであります

小兒の胃腸の病は、誠に恐るべきものであります、吐いたり、下痢したり、或は熱を出して來まして、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

僅かの時日の間に、命を取られる、小供の腹下りと謂つて、世間では、重く見ない者が尠くありませぬけれ共、大人とは違つて、小供の胃腸の急性病は、誠に恐るべきものであります、殊に本年は、此病氣が方々で、中々盛んに起りまして、性質の惡い、腹下り嘔吐のあるものが中々に多くあります、五月の末頃から、今日に至る迄此種の病が中々に多うありました、此の如き胃腸の急性病に罹るのは、ドーモ人工榮養兒主に牛乳で育てられた小兒に多いやうであります、牛乳榮養の子は、ドーモ身體發育の具合が、母乳榮養兒に劣つて居りまして、兎角色々な病に罹り易いものであります、それに氣候の變り目であるとか、濕潤であるとか、あまりに暑つ過たり、抔色々の氣候上の變化が起り、或は寢冷えをしたり、牛乳の不良のものを飲んだり、或は飲ませ過ぎたり等の事があると、忽ち病氣を起して參ります、斯ういふ目に逢ふと、牛乳榮養の子供が一番先きに侵されます、又母乳で育てた子は、タトヘ胃腸の病に罹つても、性質が左程に惡くないものが多いやうに私は經驗して居ります、それで母乳榮養の子でも、人工榮養の子でも、一度胃腸の病を起して、下痢や嘔吐のある時には、大抵の人は、原因を牛乳なり、母乳なりに歸して、乳の性質が惡かつた爲めに病氣になつたのではあるまいかとヨク言ひます、成程母の乳なり、牛乳なりに變化の起つて居る時分には、其子に、胃腸の障碍を起す事はあります、けれ共、凡て此病氣の原因といふものは、唯一つのものでは無くて、あれやこれや色々の原因が集まつて、茲に病氣を惹起すものであります、それ故に、乳の性質が惡いのではないかと疑ふ前に、先づ、養育の仕方―乳の飲ませ方が多過ぎはしなかつたか、乳の薄め方が誤まつては居らぬか、寢冷えでもしたのでは無いか、といふやうな諸般の事に注意し、之れを改良して見る事が第一に肝要な事であります、實際乳の性質の惡い爲めに胃腸の病を起すといふよりも、哺育の仕方の誤まりから、病を起す事が隨分多いやうに

私は思つて居ります、世人は單に、乳の性質が良いとか、惡いとか申して、發育の方法といふ事に氣を留めず、不規則に飲ますものが中々多いやうであります、是れでは、病の起るのは當然の事であります、それで少し腹下りがあつたり、嘔吐がある時分には、直に牛乳を換へたり、或は「コンデンスミルク」を用ひたり、色々な事を勝手にするものですから、病は益々惡くなるばかりであります、それ故に、此哺育の仕方といふ事が大層大切な事柄なのであります、榮養品を勝手に變換するといふ事は、甚だ危險な事であると御承知を願ひたい、要するに、牛乳で小兒を哺育して行く事は、甚だ困難な仕事であつて、哺育の方法を誤まらず、充分の注意をしてやつても、段々色々な障碍に出逢ふ事があります、況んや哺育の方法を心得ずして、無暗に牛乳榮養を行ふといふのは、甚だ危險な事柄で、一朝病に罹つた場合は、母乳榮養よりも、病の性質が不良なものが多いといふ事を承知して頂きたいのであります

さて上に反覆申し述べましたやうに、小兒が生れてからの榮養品は母乳に如くものは決して無いといふ事は、學問上確乎とした事柄なのであります、併しながら、イツ迄も母乳を飲まして置くべきものではありませぬ、小兒が一定の期間發育した後に至つては、最早母の乳では、充分の榮養を取る事が出來ませぬから、此時分からは、母の乳を廢して、段々と、他の榮養品を與へて、其子に適當した榮養法を講じなくてはなりませぬ、それで母の乳をやめて、他の榮養品を與へるに至る時期を離乳期と申します、是れは、大抵生後十ケ月位から後に始めるのであります、生れて十ケ月も經つと、小兒は、大分發育して居りますから、親の乳では、充分な榮養を取る事が出來ませぬ、それ故に他の品に移るのであります、離乳を行ふ時には、通常始めの間は、少し宛牛乳を與へて、漸次に母乳を止めて、全然牛乳に移り、それから、追々と他の品物を與へるやうにして行くのであります、此離乳といふ事は、中々むづかしい事

柄で、醫師の監督の下で、注意して行ふべき大切な事であります、小兒の榮養法に一變化を受けるのでありますから、決して輕々しくやるべき事ではありませぬ、それで離乳を斷行する時期は、暑い時節はいけませぬ、離乳後の食品としては、先づ牛乳、若くは、肉煮汁を與へ、段々と其分量と度數とを增し小兒發育の狀況に應じて、卵の半熟煎、米粥或は牛乳を以て煎た粥又は粥に肉煎汁を加へたるもの其他の滋養粉杯を與へて行くのであります、併し是れは勿論醫師の嚴重なる監督の下に行ふべき事であります、我國では、昔から、母の乳を永く飲ませる習慣があります、又小兒が可愛相だといふので、二歲三歲迄も乳を飲まして居るものがあります

母乳で榮養せられ、發育の良い小供であつたものが誕生前後に至つて、以前の割合に身體が發育せず、却て瘦せて、種々の病に罹り易くなるものもありますが、是れは、離乳すべき時期以後の榮養法がウマク行はれなかつた爲めではあるまいかと私は思つて居ります、親と共に、食卓に就いて、大人の食する色々なものに手を出して、之を食ひ、家庭の人達も、米飯を食はせたり杯して、別に小兒の食といふものを定めず、其傍ら生長して居る小兒に母の乳を與へる、母の乳は、此時充分の榮養價が無いといふ有樣で、小兒の榮養が衰へるやうに見えます、大人の食するものを與へる習慣を造ると、牛乳、ソップのやうな發育した小兒に適するものを嫌ふ傾きがあります、此時代から後の榮養法が亦極めて大切でありますから、大人の食ふもの杯は、決して與へないで、別に小兒の食餌を定めて、必らず規則正しく之を與へる事をするのは、極めて肝要な事柄であります、誕生以後の子で、牛乳が嫌いだと謂つて、飮ませぬ人が多うあります、然し他の品を與へぬやうにして規則正しく與へるときには、遂には好んで牛乳を飲むやうになるものであります、牛乳を嫌ふソップを嫌ふといふのは、實は、養育の仕方が間違つて居るからであります、大人でも食餌の攝生といふ事を守

るのは、甚だ困難であります、況して小供になると一層困難であります、然し、親の考へ方一つで、存外善き結果を得られるものであります、幼い時からの習慣といふものは極めて大切であります、それで以上申し述べた所を約めて申しますと、小兒の母乳榮養といふ事が甚だ大切な事で、小兒を育てゝ行くには、母乳に如くものは無い、之れに反して、牛乳榮養といふ事は、中々むづかしい仕事で、動もすると、病を起し易く、一朝胃腸の病に罹つた時分には、母乳榮養の小兒よりも、遙に危險が多い、それから、適當の時期に至らば、母の乳を與へる事を止めて、小兒の身體發育に適合した所の榮養品を與へ、生下の時分から、榮養の方法といふ事に深く意を注ぎ、哺乳の分量、時間、杯いふ事を嚴守しなければならぬ、小兒の身體は、大人の身體とは、働き具合が違ふて居るから、此點に深く注意するのが哺育上極めて、肝要な事柄であるといふ事を申し述べたのであります、併し其哺育に就ての一々の詳細な點は、玆に申し述べる事が出來ませぬから、後日稿を改めて、詳しく申し述べる事に致しましよう

質疑

問● 拜啓肺結核病には平素酒を好まざる人は少量の酒を食事毎に用ひ候へば害なきか否や酒は痰及び咳嗽に障碍あるではありませんか若し酒は宜しとせば食事毎に一回何程位を用ひたら宜しく候哉何卒御示教願ひ奉り候

羽前　會員　某

答● 平素嗜む好まぬとに關はらず肺結核患者が酒を飲むと云ふ事は素より宜しくない事で寧ろ危險と言はなければなりません、何となれば本病患者の最も惡徴は喀血でありまして其の喀血は種々の動機から起るが飲酒は最も大なる原因の一で居常好

まぬ患者が偶々飲酒する時は其障碍は殊に甚しいです、而して咳嗽喀痰等にも著しき害がある事は從來の經驗上明かであります、併しながら酒は萬物の長と往時から稱へらるゝだけ之を適度に用ゆれば精神の爽快を覺へ血行を旺んならしめ消化を輔け氣力を增進する事は事實でありますから古來衰弱したる患者に用ひられ屢々好果を得つゝありますが、肺結核患者に直に之を適用するは頗ぶる問題であります、併しながら他に併發症のない限りは毎食後極めて上等の葡萄酒一小盃位は至極適當でありませう

尚本病の療法をお尋ねですが之れは頗ぶる複雜で而かも困難であり多端であるだけ夫れだけ確然たる療法がないと云ふ譯ですから一言以て能く盡し得る所でないのですが、抑も本病病原體が一八八二年、今般來朝のコッホ博士に因て發見されし以來療法も年々進歩して今や本病は不治の疾患でないと云ふ程度まで漕付けられましたが、扨て其の治療に至りては多大の忍耐と巨額の費用とを要するので多くは人の矢盡き刀折れ往々にして等閑に終はるのは寔に遺憾とする次第であります

茲には自宅療法として簡單に述べませう、勿論適當の醫士に就て充分なる治療を受けるが緊要ですが殊に必要なるは新鮮なる空氣と滋養豐富なる食物の攝取です、就中肝腎なのは高燥の地にありて清潔の大氣中に呼吸し甚しき氣溫の變更を避け日光の射入をして充分ならしむる事であります彼の所謂氣候的療法は之れに基くものでありまして酷暑の候には山間幽邃の地に轉療し嚴寒の季節には熱海須磨明石等の暖地に養痾する事が適當です凡て氣候的療法の主旨は清朗なる天氣平等なる氣溫に乘じ風靜かなる時を撰び徐ろに散策を試み力めて日光の直射を蒙るにあるのです、本患者は許す限り多量の食物を採り榮養を佳良にし疾病に對し抗抵力を增す事に努めねばなりません食物中適當なる者は多量の牛乳鷄卵魚肉牛肉等を適宜に調理

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して食し「ソマトーゼ」「チールストップハイデン」「トロホン」「フノーゼ」等の榮養物を試用又肝油等の如き脂肪食肉汁等も亦適當ですが肝油等の如きものは胃を害するの虞れある故夏氣中は用ひざるを可とす其他皮膚の抵抗力を強くする爲め冷水灌漑若くば摩擦を行ひ一定の體操及び適度の運動は孰れも必要です

問● 前略御免下され度候扨て此間或る婦人雜誌に口を開けて眠る小供は呼吸上恐るべき害があると云ふ事が書てありましたが私の小供も生後滿二ケ年になりますが睡眠時にたわいもなく口を開て眠る癖ありて誠に困りますが如何に注意致しましたならば口を結び鼻で呼吸をするやうに成るでせうか何卒其の注意法を御教示願ひ上げ候

高崎　某會員

答● 口を開けて眠るには通常先づ二つの原因があると想像される一は鼻道及喉頭の疾病例ば肥厚性鼻炎、「ポリープ」或は喉頭の腫物、炎症等に因て呼吸道の狹窄されたる場合に來たり他の一は疾病と云ふのでなく生來一種の習慣から來るのです元來呼吸は口からするものでなく鼻で以てせねばならぬので外氣が鼻道を通過する時は先づ其の温度を調和し且つ之を濾過すると云ふ主要な働きがありますが口には如此機能が少ないものですから塵芥、黴菌等が直接氣道に入りて種々の恐る可き疾病を惹起す動機となるから危險と云ふのです

そこで何れが原因で口を開て眠るかに付ては宜しく專門醫家に就て診察を受け其の疾病より來るものには夫々充分の治療を受け又習慣から來るものには教示的矯正法が最も有效であります併しながら之れは一定の年齡に達しなければ困難です大約四、五歲に成り多少理解力の付きたる頃に克く之を諭して可及的口を閉ぢて眠る樣に努むれば自然に矯正さるゝでありましよう

雜報

○内務所管の衛生費

内務省所管本年度の衛生費は傳染病研究所費二十萬圓船舶其他の檢疫費十八萬圓衛生試驗所費五萬圓本省の衛生費一萬餘圓なりしが以上は四十二年度の豫算に於ても大同小異の有樣にて著しき新費目の計上を見ずと雖も其の新設事業としては前年來其の議ありたる衛生館（衛生試驗所構内に設置せんとする衛生參考品の陳列館なり）新設の計畫にて右は二十萬圓の經費にして數年繼續事業とし年度割支出の筈なるが尚此の外にペスト豫防上に於ける捕鼠用瓦斯發生機裝置船三艘を建造せんとする計畫もある由此船は瓦斯發生の裝置によりて船舶の載積貨物を消毒し且つ鼠族を捕捉せんとするものにて之れが經費は約二萬圓の豫算なりと

○コッホ博士の旅程變更

曩に鎌倉に滯在中なりしコッホ博士が豫定せる旅行日程に依れば九月中は日本に滯在し各地方の觀光に費すべき筈なりしが頃日突如として本國政府より特電あり來る九月米國華盛頓府に於て開かるべき萬國結核會議に委員として出席すべきことを命ぜられたるを以て豫定の日程を短縮するの已むなきに至れり依て博士は二十七日鎌倉を發して箱根へ赴かれ富士屋ホテルに三泊、三十日午前九時二十三分國府津發車にて名古屋へ向け出發せられたるが八月二十日迄には歸來、同月二十四日横濱出帆のインプレス、ヲフ、インデア號にて米國に向て渡航せらるべしといふ尚ほ二十九日迄に定まりし行程は左の如しと

▲七月二十九日迄箱根滯在▲同三十日箱根出發名古屋一泊▲同三十一日名古屋出發岐阜に向ひ同所にて鵜飼見物の上名古屋泊▲八月一日名古屋出發伊勢參宮をなす▲同二日奈良に向ひ二日間滯在す▲同四日京都に向ひ一週日間滯在し琵琶湖畔に遊び京都附近の名所舊蹟を探見す▲同十二日大阪を經て神戸に向ひ一泊の上瀬戸内海を遊覽▲同十六日宮島に向ひ此島より上陸して附近を見物す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○コッホ博士に日本服を贈る

コッホ博士夫妻は各地到る所に歡迎を享けつゝありしが今や京都の靑嵐に浴して將に神戶に入らんとするに先立ち神戶醫師會にては此外賓歡迎紀念の爲に博士及び同夫人に日本服を贈る事となり北里志賀兩博士に相談の上洋服及び靴の寸法を參酌し大丸吳服店神戶支店に注文して製し上げし意匠を聞くに總て古代美を倣ひ地質は越後縮色は卵色在來卵色には黃色の染料を用ひ居れど之は品位も高からず且つ褪色の憂あれば特に卵子土を以て染上げしなど同店の最も苦心する處なりと云ふ而して其寸法は普通日本人なれば肩行六寸五分長四尺と云ふは頗る大柄の方なれど博士の分は丈五尺後九寸五分前八寸袖長二尺行八寸五分と云ふ素晴しき大仕立にて紋の大さは直徑鯨尺にて一寸五分菊水の五所紋にて夫人の分は紋の直徑一寸二分にしたりと之を納むる箱は桐の絲柾にて上に菊水の模樣を畫きたるものにて一個の價卅五圓衣裳は醫師會よりの指定値段は六百圓なりしも大丸吳服店の手前にては七百廿圓を要したりとの話なり

博士の分
- 著　物　卵子色越後縮
- 羽　織　本檳榔子黑五本絽五ッ紋付
- 帶　　　熨斗目納戶綴錦
- 襦　袢　白越後全仕立

夫人の分
- 著　物　納戶色鶉の絽縮緬檜の模樣
- 下　著　白鶉の絽縮緬
- 長襦袢　鶉色麻葉模樣の紋縮緬
- 丸　帶　鼠納戶に柳の模樣の新綴錦
- 腰　紐　雲鶴の白茶金襴

○萬國學校衞生會議

萬國學校衞生會議は其第一回を一九〇四年四月獨逸入蘭堡に、第二回を一九〇七年八月英國龍動に開會し今や一九一〇年(明治四十三年)三月廿九日より四月二日を期して之が第三回會議を附屬萬國學校及び敎授衞生品展覽會と共に之を佛國巴里に於て開かん

とす而して萬國學校衞生會議永久委員會總理としては第三回本會議會頭たる醫學博士ア、マチユー氏之に當り永久委員會本部理事兼日本國代表者としては醫學博士三島通良氏指名されたり尚本會は世界各國の學術の代表者及び學術衞生の朋友が奮つて第三次本會議の爲に一國又は一地方の準備會を組織し以て其政廳及び學校管理者を始めとして教育家、醫師及び父兄等の本會議に加盟せん事を切望せり其加盟費は前回と同じく一人に付廿五佛貨（金十圓）にして本邦に於ては第三回本會議準備委員會の成立に至る迄は此加盟に關する件も一時永久委員會日本事務局（東京市丸の內內幸町一の三、三島醫院內）に於て之を取扱はるゝ由

○飼猫の調査

コツホ博士が先頃滯京中ペスト豫防に就て各戶に猫を飼養する必要ありとの意見を發表せしより警視廳第三部にては之に同意し數日前各署に命じ巡査をして各戶に飼養せる猫の頭數を調査せしめたるが市內にて飼へる猫の數と捕鼠の屆出數と差當り對照の必要あるに付目下取急ぎ調査しつゝありしと

大日本婦人衞生會記事

○茨城支會入會者

○栂山やす子紹介

● 通常會員　朝日奈のぶ子

● 通常會員　岡崎くり子

● 通常會員　木間瀨ふさ子

○山形支會入會者

○高木幹事紹介

● 特別會員　本鄉森子

○新潟支會入會者

○支會長竹山れつ子紹介

● 特別會員　河合てる子

○評議員鋭淵りう子紹介

● 通常會員　淸水ふみ子

○轉居

●麻布區笄町九十四へ　淺田みか子

●芝區高輪南町四十四へ　細川同子

●沖繩縣那覇區久米官舍へ　河村寧子

●熊本市新屋敷五十二へ　金竹まさ子

●赤坂區青山南町六ノ十二へ　藤野菊枝子

●京橋區木挽町一ノ十一へ　西園寺留子

●小石川區丸山町十九へ　古谷揚子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

嶄新なる滋養強壯劑

獨逸ハンブルヒ市コールス繼續社化學品製造部特製

赤函入

鷲印ヘマトーゲン

病後の衰弱、發育不良の小兒產婦の榮養不良、貧血症及萎黃病殊に月經過多に因する貧血等に最も良效を奏し虛弱者及體力、體量の增大を計らんと欲する人には他に見る可からざるの適劑にして嘗つて幾多の醫學大家は本品を旺に賞用せられ少しく持續服用するときは如何なる難症に陷りし人も必らず輕快に赴くを證せられ服藥中決して消化機能に障碍を與へず反て食慾を催進せしめ身體の全機能に新活氣を與へ精神の活力を增發せしむる等實に優秀なる鐵製劑にして加ふるに味ひ可良なるに據り小兒、婦人等服用に苦しまざる良藥なり

（全國有名の藥舖に販賣す 赤函入鷲印と指定あれ）

日本代理店

大阪道修町三丁目

鹽野義三郎

電話「長」東五四二番　振替貯金口座大阪七七參番

小兒を完全に發育せしめんと欲せば牛乳に之を加へよ

インファンチナ

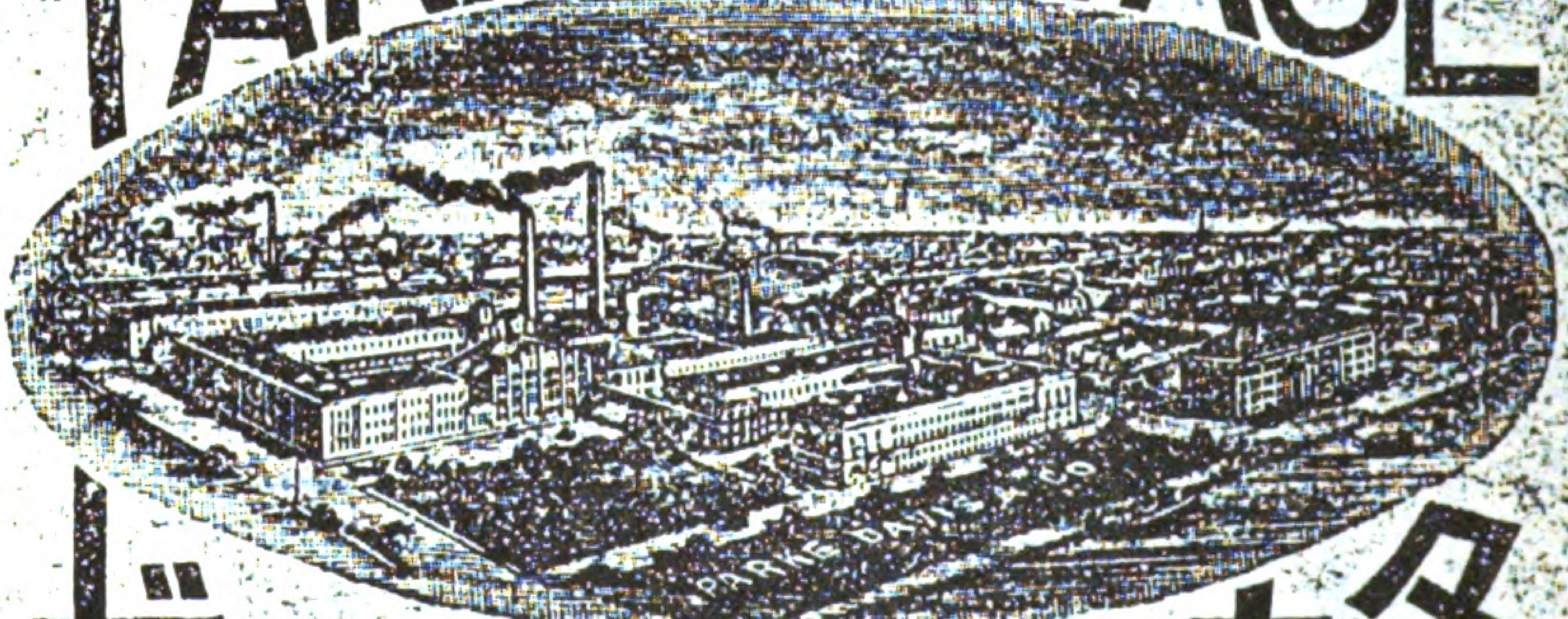
醫學博士弘田長氏曰く(上略)予も亦久しく完全なる小兒營養品を求めつゝある者の一人なり、而して坊間販ぐ所のもの一長一短彼に可なる所あれば是に否なるあり撰擇又撰擇絕えて我意に滿つる製品なきを慨したりき、然るに客歲官命を帶びて歐州諸國を巡回したる際、測らずも完全なる小兒營養品を得たり、これ即ちドクトル、タインハルド氏可溶性小兒食品「インファンチナ」なり(中略)其化學的集成を見たるのみにして既に本品が如何に適當に配合せられたるものなるかを知るに足る其消化性蛋白質に富めるとや、其含水炭素の大部分の可溶性なるとや、徒に多量の脂肪を含まざるとや、鹽類中にも小兒の發育に至要なる燐酸鹽類を適當に含むとや、何れも是等營養的人工製品を求むる者の理想とする所ならざるなし、こ而て更に之が用法を見るに小兒の年齡に依り一定量の牛乳と水とに和して用ゆべく定めたり、これ人為の力のみを以てしては到底不滿足にして天工を奪ひ能はざることを自認し、一半は天然物を以て之に充て其質を更めて天工に近かしめむと試みたるもの、即ち牛乳の性質を變せしめて人乳、就中小兒の生母の乳汁と同一ならしめむと欲したるなり、其考案の巧妙にして而かも實用上些の遺憾なき、寔に感嘆に値すと云ふべし、(中略)予も亦之を實驗したるに消化不良に罹れるもの又は現に下痢ある者の如き本品を用ゆるに依りて之を制止す

「インファンチナ」の分析表及用法用量は現品に附したり

「インファンチナ」は百瓦入三百瓦入五百瓦入の三種とし互れも鑵入として發賣せり各地の有名藥舖にて販賣す最寄の藥店になきときは直接照會を乞ふ

發賣元 東京市日本橋區南茅場町二番地 **三共藥品合資會社**

TAKA-DIASTASE



タカヂアスターゼ

世界最大の製藥工場

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

高峯氏發見消化新劑

タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。完備せる裝置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶強度均一にして、又其効力永久不變なり。醫師及藥舖諸彦！模造品製造者の誇大なる虚僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の實品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徴し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店　東京南茅場町　三共藥品合資會社

内務省衛生試験所試験済

効用の概要

消毒兼用

頭髪洗　襟垢油落
絹綿布　メリヤス類
毛織物類　フランネル
毛布洗濯　窓掛敷布
看護婦服　綿帶ガーゼ類
醫家手術服　硝子器類
銀器陶器　食器類
牛乳罎及罐　ヨゴレ物一切

孔雀印

英國プラン門會社
新發明特製專賣品

セスクイ

有効無比洗濯料
警視廳免許◎旅行者必携

金五錢　金拾錢　金貳錢

東京市本郷區本郷貳丁目九番地

直輸入
發賣元　前島丹頂堂藥局

御用ひ方

至極簡便にして手數を省き經濟大徳益比類なし故に家庭の常備品として壹本の御試用あらん事を希望す

販賣所は到る處の藥店小間物店ニアリ
本品ハ衛生上缺クベカラザル洗濯料ナリ

私立大日本婦人衛生會 茨城支會規則

開設の趣旨及目的　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可らず之を望まんとするには必ずや衛生と相俟て而る後始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に陳じて更に茨城支會を開設し吾人か日常實行する衛生の事項をして益研究し益改善を圖りて其の發達を互に努め力めんとするに在る而已●本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會するを得●入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本會事務所に申込む者とす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖ども徽章代は豫め前納せらるべし●會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一月金三十錢以上會員は一月拾五錢を納むるを●男子にして本支會の趣旨を贊成する通常者は之を贊成員とす●本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くるを得●退會せんとするものは其旨本支會事務所に報知すべし。(死亡等は親戚知人より通知せらるべし)●支本會に左の役員を置く支會長一名、副支會長、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づつ互撰分擔す●役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く毎月一回第三の日曜日に之を開く總會は五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるべし●毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説又は之に關した實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるべし)●會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるべし●茲に記述したる數項の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部規則を適用するものとす

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地
茨城支會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衞生會高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別賛成員を定員外の評議員とす●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所高崎市寄合町五十番地

高崎支會

速記應囑

事務所の特長は深切にして然も迅速なるにあり●女流の會合にして男子を近け難き場合若くは著述家翻譯家等の爲めには特に女子の速記者をして之に當らしむ

東京麴町區富士見町五丁目九番地

佃速記事務所

電話番町四十八番

新刊

醫學士　竹中成憲新著

臨牀 治療醫典　ポッケット入美本　壹圓貳拾錢郵八錢

右今般發賣致候

東京神田表神保町
醫學大辭書發行所　同文館

振替貯金口座一三五番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ

○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第三號

メッキ製拾貳錢、送費六錢

○第二號

正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第一號

七拾錢（黑塗箱入送費九錢）

六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと◎東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候◎追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす◎會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出あるべし◎會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし◎轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之◎特別廣告一頁拾四圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地

發行所　私立大日本婦人衛生會

（振替貯金口座一〇六〇〇番）

東京市下谷區竹町五番地

編輯兼發行者　齋藤諸之丞

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地

印刷者　今井甚太郎

明治四十一年六月十六日印刷
明治四十一年六月二十日發行（每月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込[illegible]　杏林舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN